

沖縄県高校生調査 中間報告

平成29年3月6日

調査概要 1

●調査目的

本調査は、沖縄県教育委員会の協力のもと、沖縄県内の公立高校2年生とその保護者に対し、沖縄県に住む高校生を取り巻く社会や経済の状況がどのように今後の進路や将来の希望、日常生活などに影響しているかを調べ、今後の進路支援や子育て環境への対策を検討していくことを目的として行われました。

調査は沖縄県からの業務委託を受けて、一般社団法人沖縄県子ども総合研究所が実施しました。

調査概要2

●調査期間

平成28年11月21日(月)～12月2日(金)

●調査対象

調査対象高校 沖縄県立高校全60校(全日制・定時制含む)

対象学年 高校2年生

(平成28年5月1日在籍生徒数14578人の50%)の生徒とその保護者

※対象学年の各学級の50%が対象となるよう抽出

調査概要3

回収状況	配布数	回収数	有効回答数	有効回答率
高校2年生両票あり	7289	4572	4311	59.1%
(生徒票のみ)			4471	61.3%
(保護者のみ)			4383	60.1%

調査概要4

回答者のプロフィール(保護者・生徒両票あり)

回答者属性							
	母親	父親	祖母	祖父	その他	無回答	合計
度数	3720	505	31	6	21	28	4311
割合	86.3%	11.7%	0.7%	0.1%	0.5%	0.6%	100.0%

生徒					
	男	女	答えたくない	無回答	合計
度数	1885	2241	107	78	4311
割合	43.7%	52.0%	2.5%	1.8%	100.0%

世帯構成									
	二親世帯	二親世帯 (三世代)	母子世帯	母子世帯 (三世代)	父子世帯	父子世帯 (三世代)	その他	無回答	合計
度数	2924	338	597	147	100	43	65	97	4311
割合	67.8%	7.8%	13.8%	3.4%	2.3%	1.0%	1.5%	2.3%	100%

調査概要5

●調査の企画および分析について

本調査は、昨年度沖縄県が実施した「沖縄県子ども調査」から継続し4名の学識者に調査票作成にかかわる助言ならびに調査分析への協力を要請し、調査企画・分析を実施しました。

沖縄県高校生調査・調査協力学識者

加藤彰彦(沖縄大学名誉教授)

山野良一(名寄市立大学教授)

湯澤直美(立教大学教授)

中村強士(日本福祉大学准教授)

調査概要6

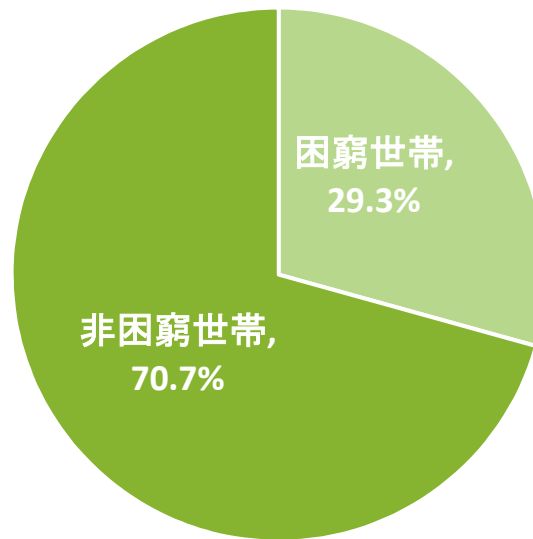
●世帯経済状況別分析について

本調査では、世帯の経済状況が子どもの育ちに関して影響を及ぼしていることを確認するため、回答を世帯ごとに「困窮世帯・非困窮世帯」の2区分に分けて分析を行いました。区分けに関しては、本調査保護者への世帯の所得に関する設問項目から、あらかじめその世帯の収入額を推計し、世帯人数(生計が一である家族の人数)の平方根で割り等価可処分所得を算出し、以下の基準に基づき困窮・非困窮世帯に区分けを実施しました。なお、本来の貧困ラインとは異なる基準のため、「困窮世帯・非困窮世帯」と今年度は呼称しています。

(本調査における等価可処分所得額による分類の基準)

今回の分析(平成28年度)では、困窮世帯を区分けする基準として、平成25年国民基礎調査から算出された貧困ライン(122万円)に消費者物価指数(CPI)の変動から算出された係数(103.95)を掛けた、127万円としています。平成28年度は、3年ごとの国民生活基礎調査の大規模調査の年であり、平成29年夏には新しい貧困ラインが発表されることになっていますが、当面CPIを利用した仮の基準を用いました。本来ならば新しい貧困ラインに基づき分析されるべきところです。なお、昨年度税務調査を基にした貧困率の推定が行われましたが、その場合もCPIによって調整された基準が用いられています。

本調査における 困窮世帯/非困窮世帯



等価可処分所得額	区分
127万円未満の世帯	困窮世帯
127万円以上の世帯	非困窮世帯

調査概要7

●調査内容について(概略)

A) 保護者票(概要)

- ア) 世帯の構成・保護者の就労状況
- イ) 支援制度の利用状況
- ウ) 高校通学に関する状況
- エ) 高校卒業後の進路について
 - ・進学費用について
- オ) 進学費用に関する考え
- カ) 収入・生活に関する状況

B) 生徒票(概要)

- ア) 学校・学習の状況
- イ) 将来の進路
- ウ) アルバイトの状況
- エ) 家族との関係性
- オ) 自分の状況

調査概要8

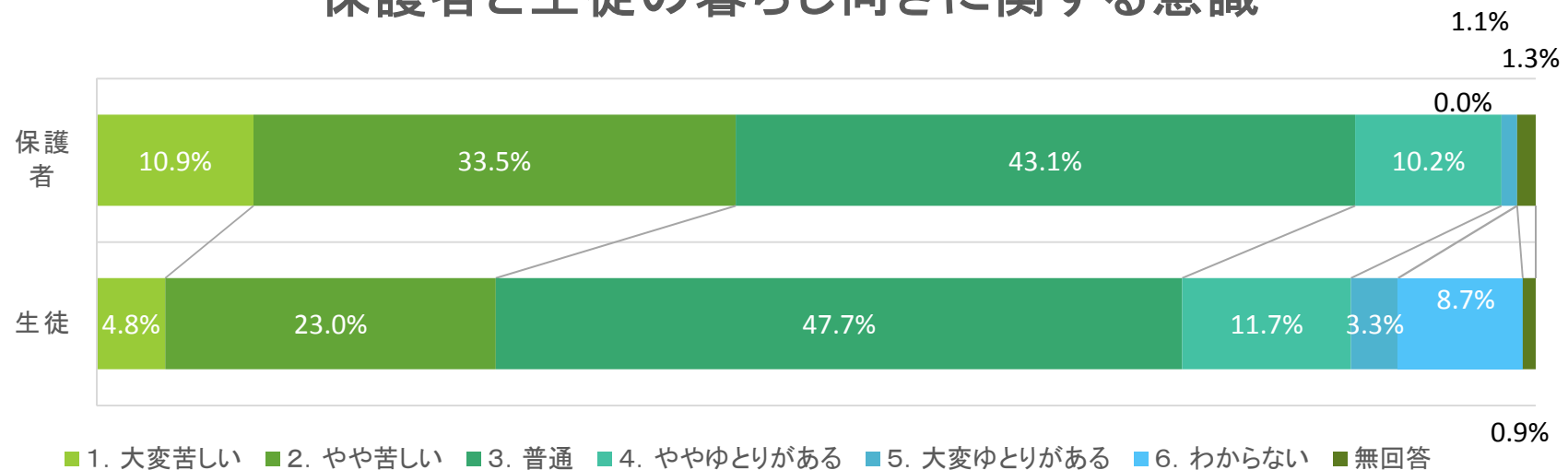
本調査は次年度、継続分析を予定しておりますが、それに先行して、本県高校生の課題となり得る可能性のあると想定した項目について中間報告として分析作業を行いました。

	分析項目	分析担当
1	現在の暮らしについて(保護者票)	湯澤直美
2	生活困窮状況(保護者票)	
3	生徒のアルバイトの状況について(生徒票)	
4	高校生等就学支援金制度の利用について(保護者票)	
5	高校への通学手段について(保護者票)	山野良一
6	高校進学時の進路決定について(保護者票)	
7	卒業後の進路について(保護者票)(生徒票)	
8	保護者の地域や友人とのつながり(保護者票)	子ども総合研究所
9	自由記述欄概要(保護者票)(生徒票)	

現在の暮らし 生活困窮状況

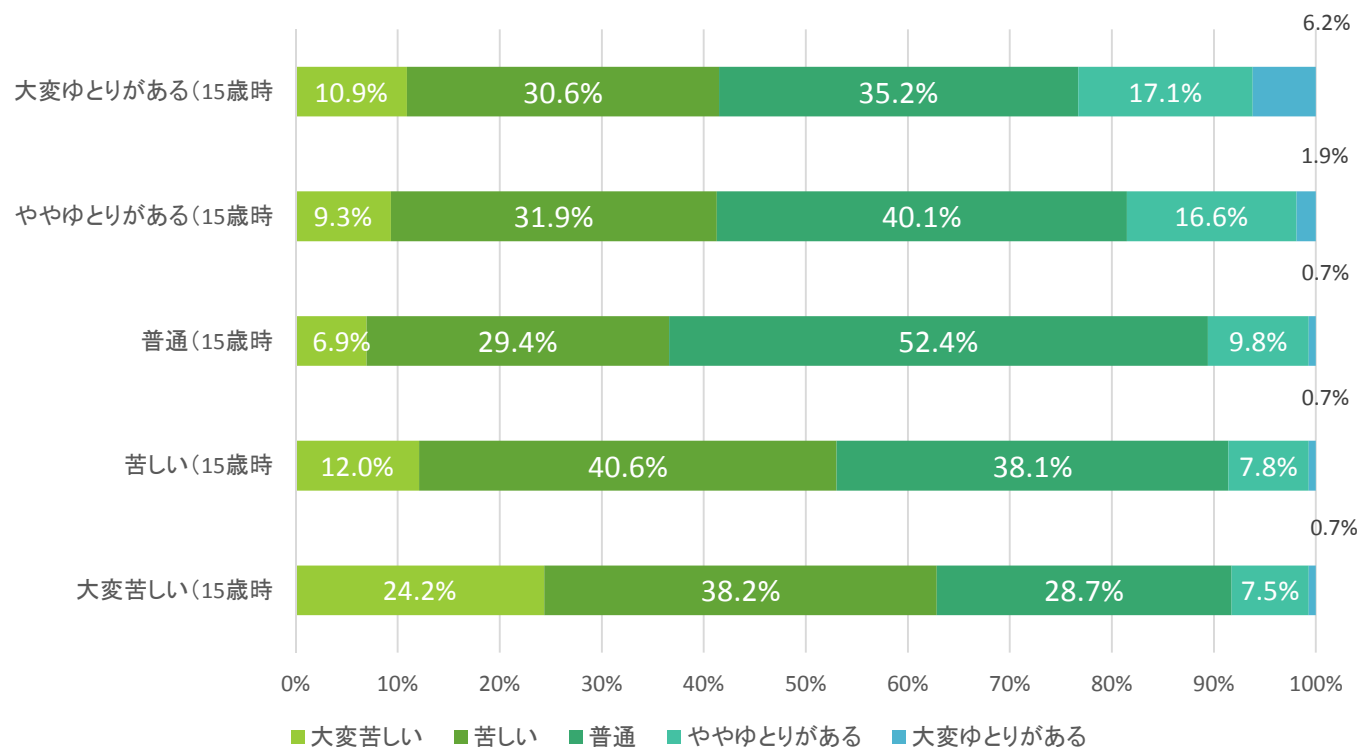
現在の生活をどのように感じているか

保護者と生徒の暮らし向きに関する意識



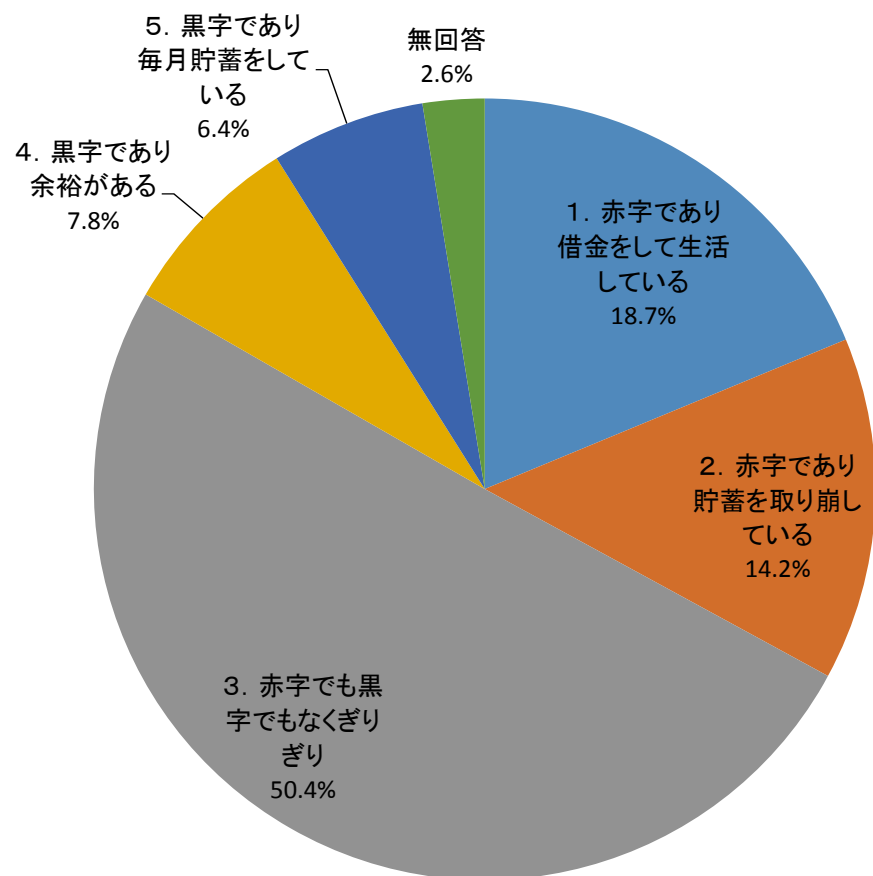
「大変苦しい」「やや苦しい」と答えた者は、保護者では44.4%、生徒では27.8%。一方、「ややゆとりがある」「大変ゆとりがある」と答えた者は、保護者では11.3%、生徒は15%にとどまる。

回答者の15歳の頃の暮らし向きとの関係(保護者)



回答者が15歳の時の暮らし向きと現在の暮らし向き:統計的には有意である。

通常の家計の状況

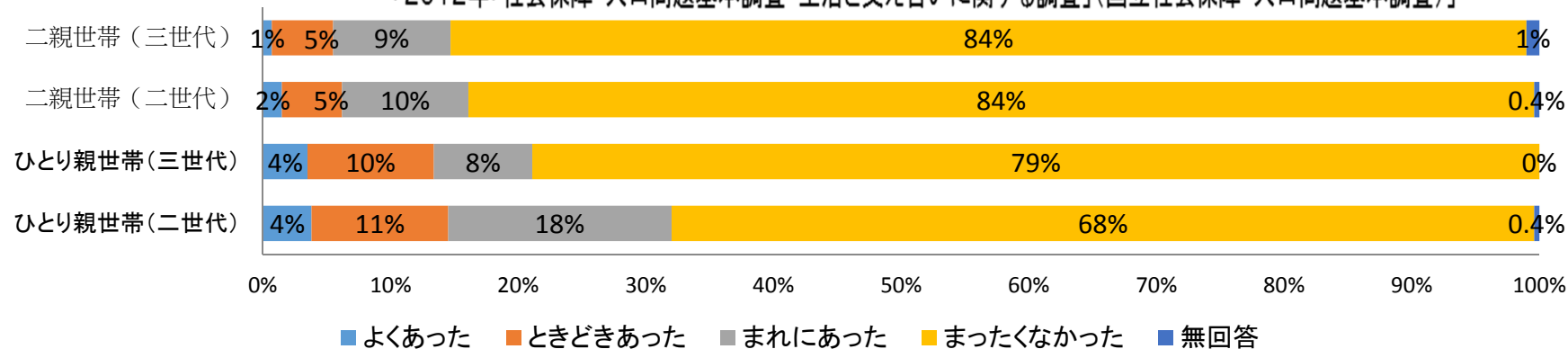


「赤字であり借金をして生活している」「赤字であり貯蓄を取り崩して生活している」世帯は、3割強(32.9%)。

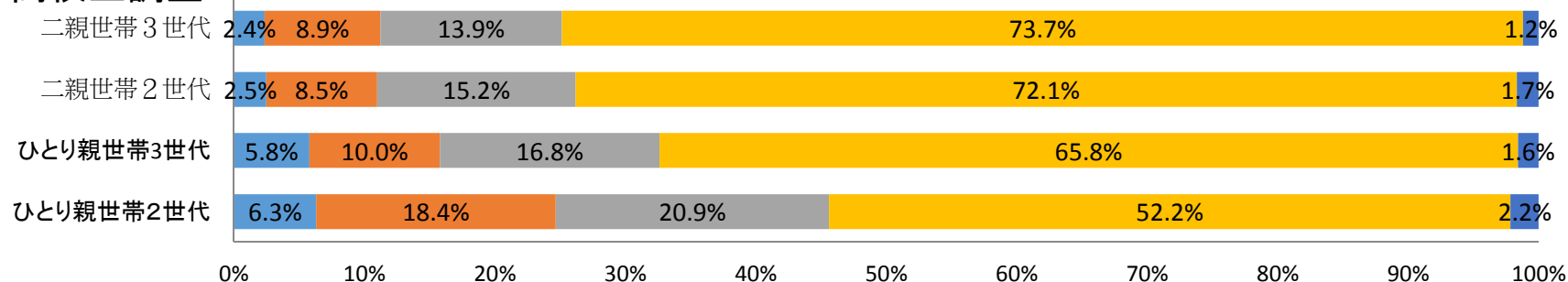
過去1年間に食料を買えなかった経験

●子どもがある世帯(20歳未満の子ども)の食料を買えなかった経験(全国)

「2012年「社会保障・人口問題基本調査 生活と支え合いに関する調査」(国立社会保障・人口問題基本調査)」

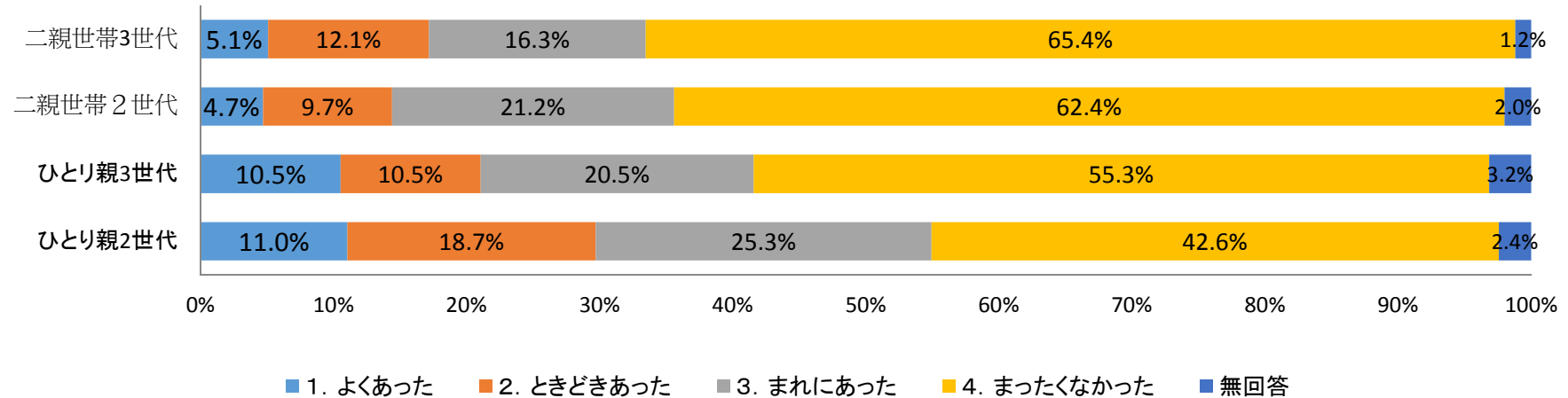


●高校生調査



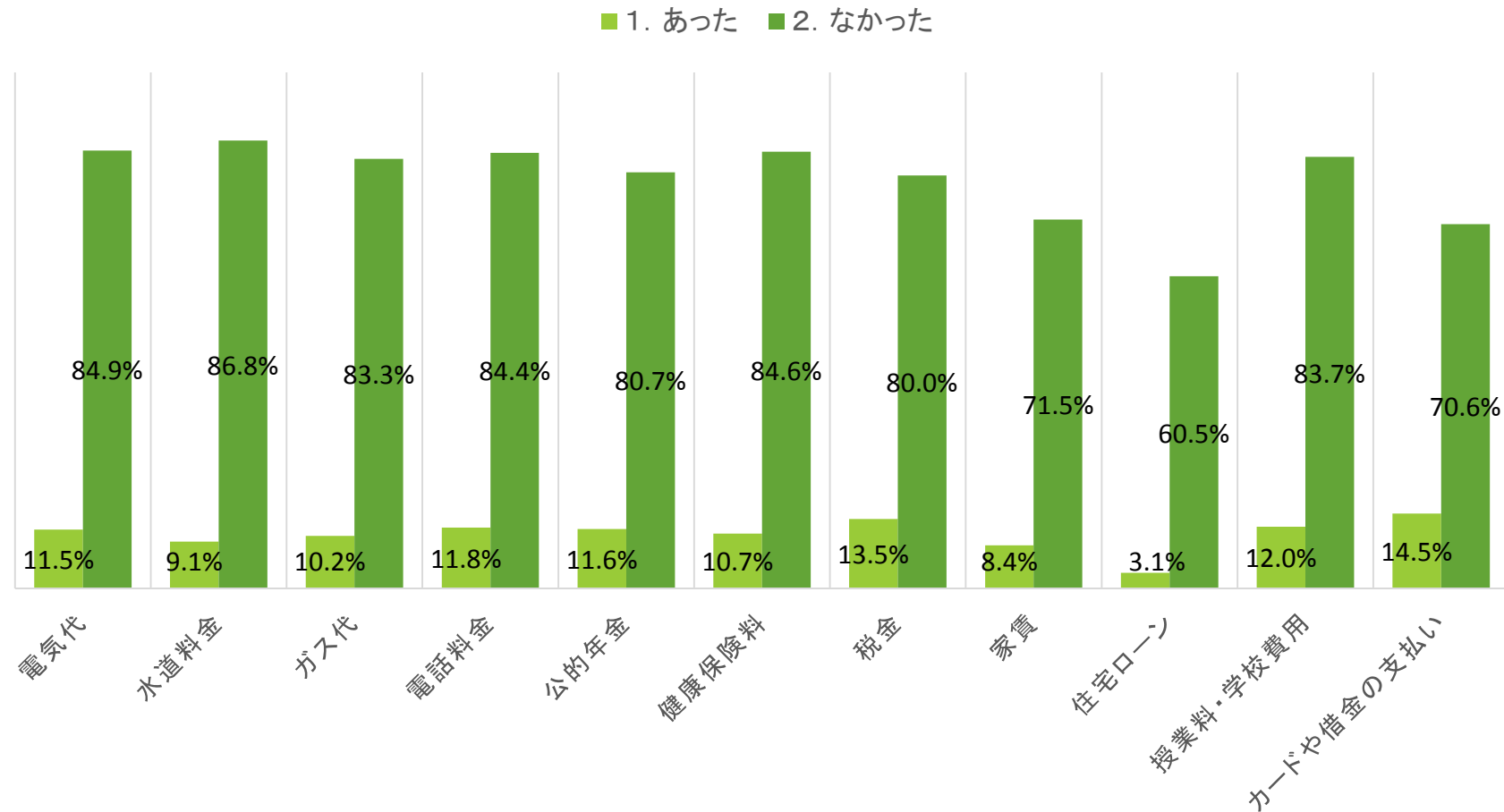
●食料が買えなかった経験が「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の割合は、全国では、二親世帯で15%~17%、ひとり親世帯では22~33%だが、本調査では二親世帯が25.2%~26.2%、ひとり親世帯は、32.6~45.6%と高い。

過去1年間に衣料を買えなかった経験



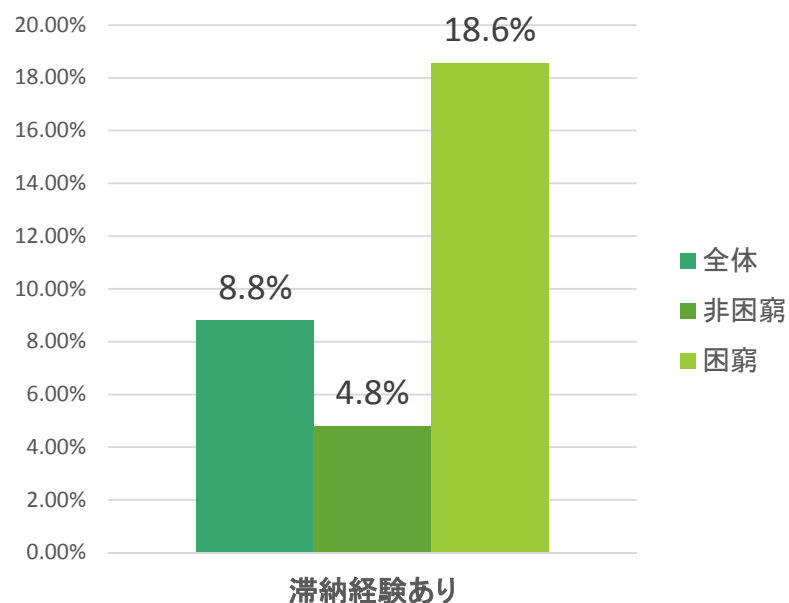
●衣料が買えなかった経験が「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の割合は、二親世帯が33.4%～35.7%、ひとり親世帯は、41.5～55.0%となっており、ひとり親世帯（二世代）では過半数を超える世帯で、必要な衣料品が購入できない状況にある。

過去1年間の滞納経験



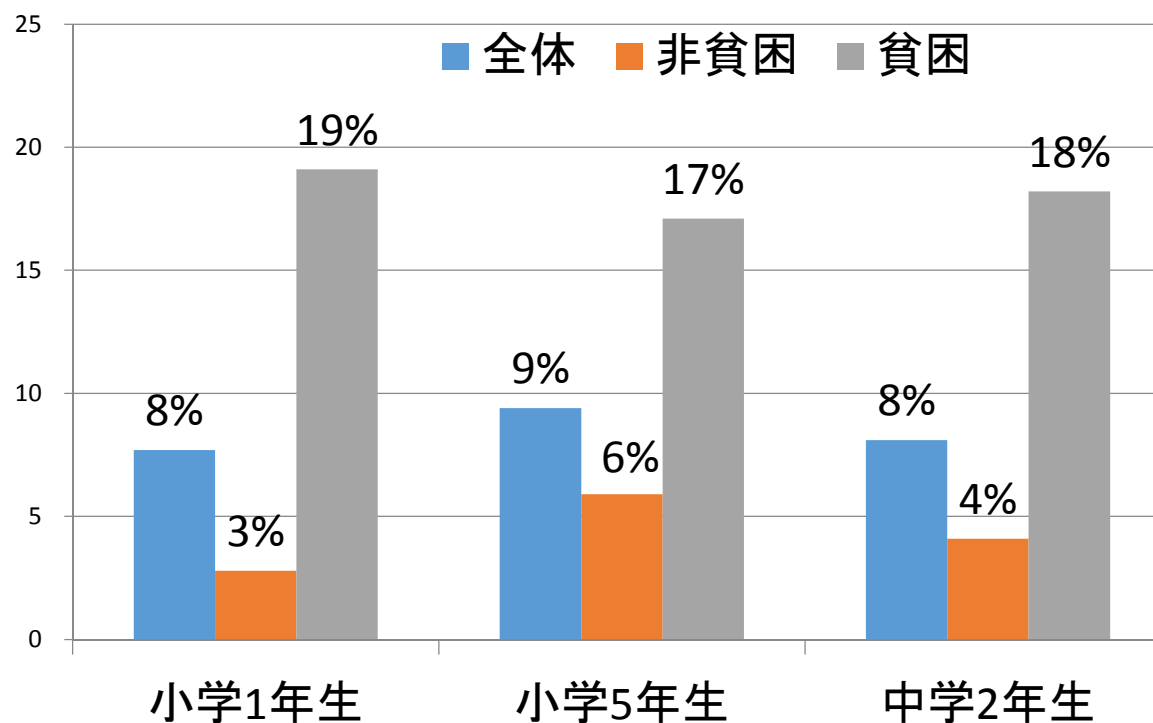
全体で見ると、住宅ローンを除くと、8%～15%に滞納経験がある。

過去10年間、経済的理由による料金滞納のために電気、ガス、水道を止められたことがありましたか



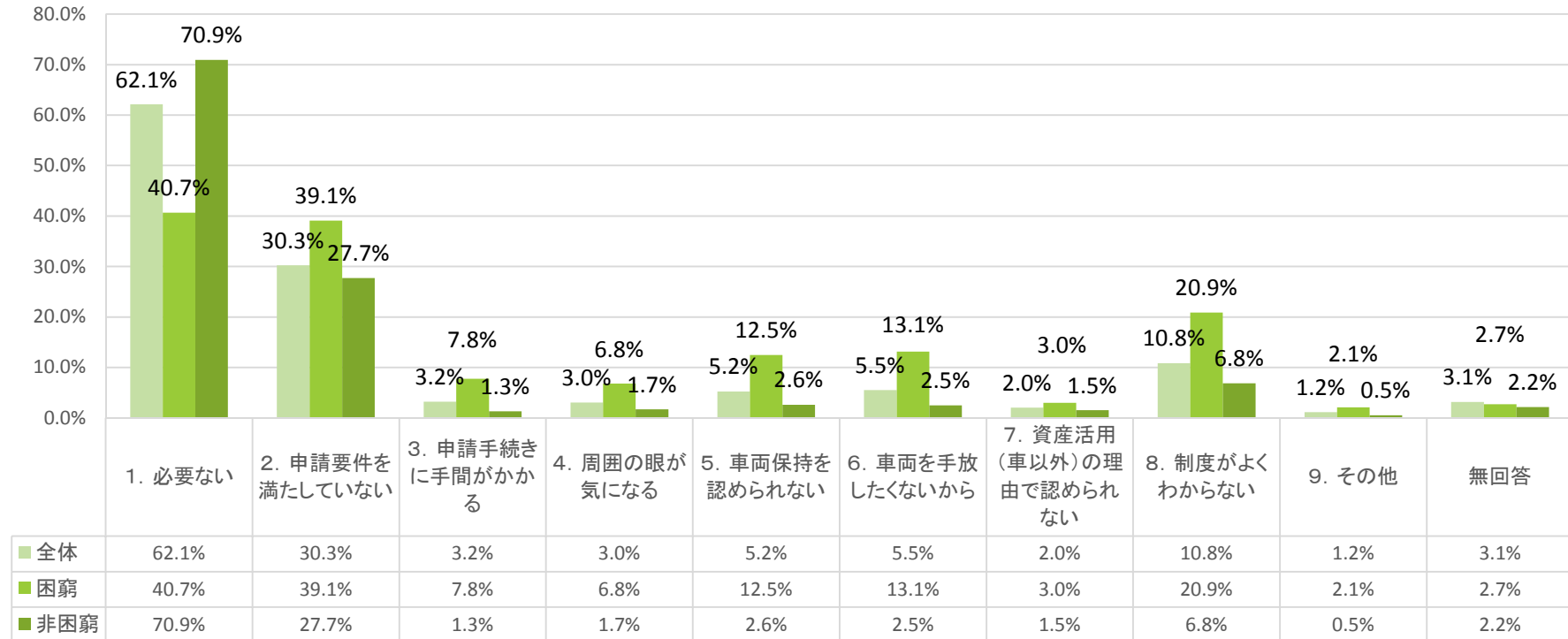
非困窮世帯では4.8%、困窮世帯では18.6%が経験あり。昨年の小中学生調査とほぼ同様の数値。

「あなたの世帯では、過去10年の間に、経済的な理由による料金滞納のために、電気、ガス、水道を止められたことがありましたか」



全体では、8～9%がライフラインを停止された経験をもつ、貧困世帯では17～19%。
全国データはない。

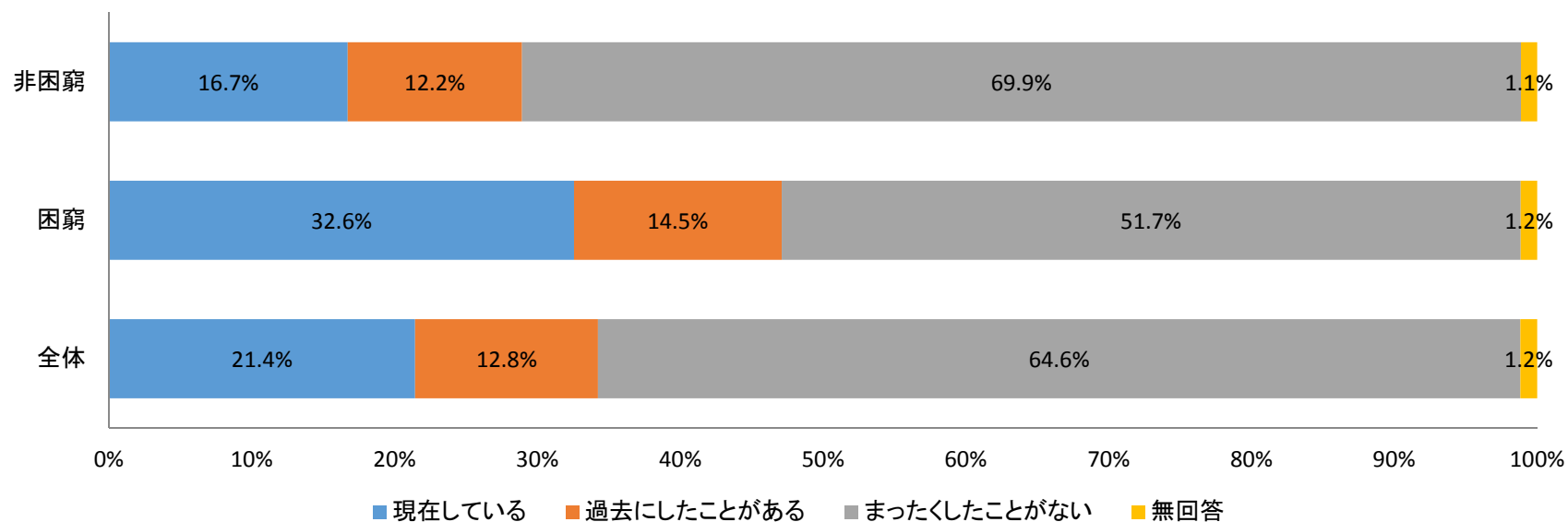
生活保護制度を利用しない理由（複数回答）



生活保護を受給している世帯は2.0%。受給していないと回答した人（94.5%）の中で生活保護制度を利用しない理由のうち、困窮世帯では「必要ない」は4割程度であり、申請要件、車保有関係のほか、「制度がよくわからない」などがみられた。

高校生の就労 (アルバイト等)

高校に入ってから今までに就労したことがあるか



困窮世帯では、3割強がアルバイトをしているのに対し、非困窮世帯は16.7%。(統計的に有意)
「現在している」「過去にしたことがある」の合計で見ると、困窮世帯は47.1%、非困窮世帯は28.9%となっている。

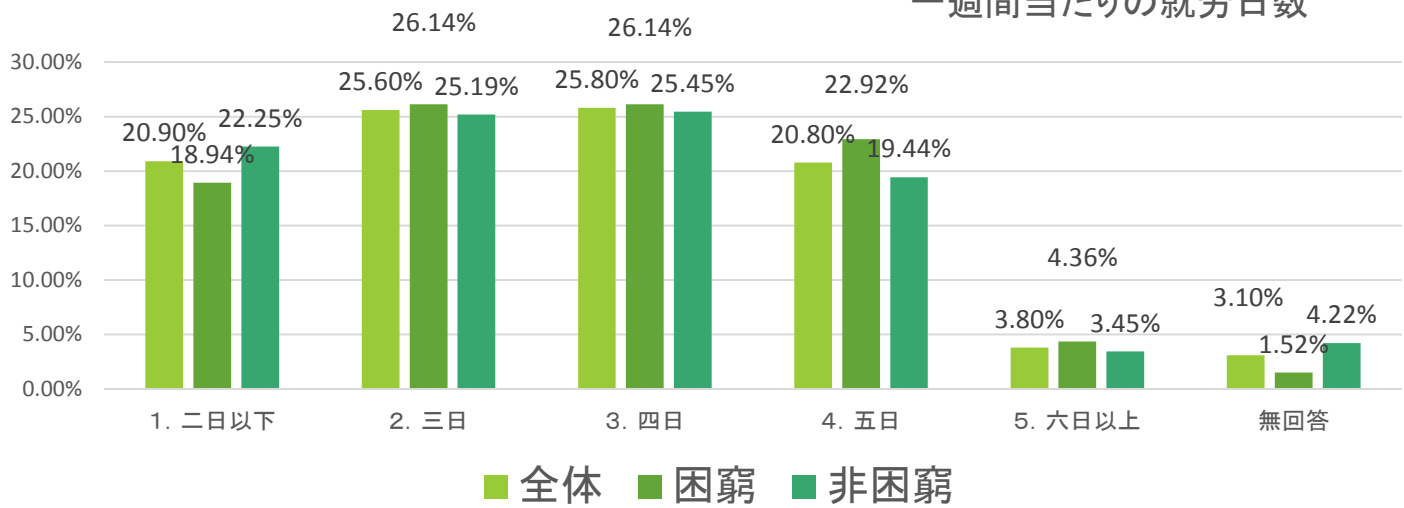
どのような時にアルバイトや仕事をしているか

	年間通していつでも	長期休暇期間など時間に余裕があるとき	単発の仕事でタイミングがあったとき	無回答	合計
困窮	375	101	48	4	528
	71.0%	19.1%	9.1%	0.8%	100.0%
非困窮	502	148	125	8	783
	64.1%	18.9%	16.0%	1.0%	100.0%

アルバイトをしている、過去にしたことがあると答えた生徒(全体の34.2%)のうち、年間通していつでも働いている高校生は6~7割。

一週間にどのくらい働いているか

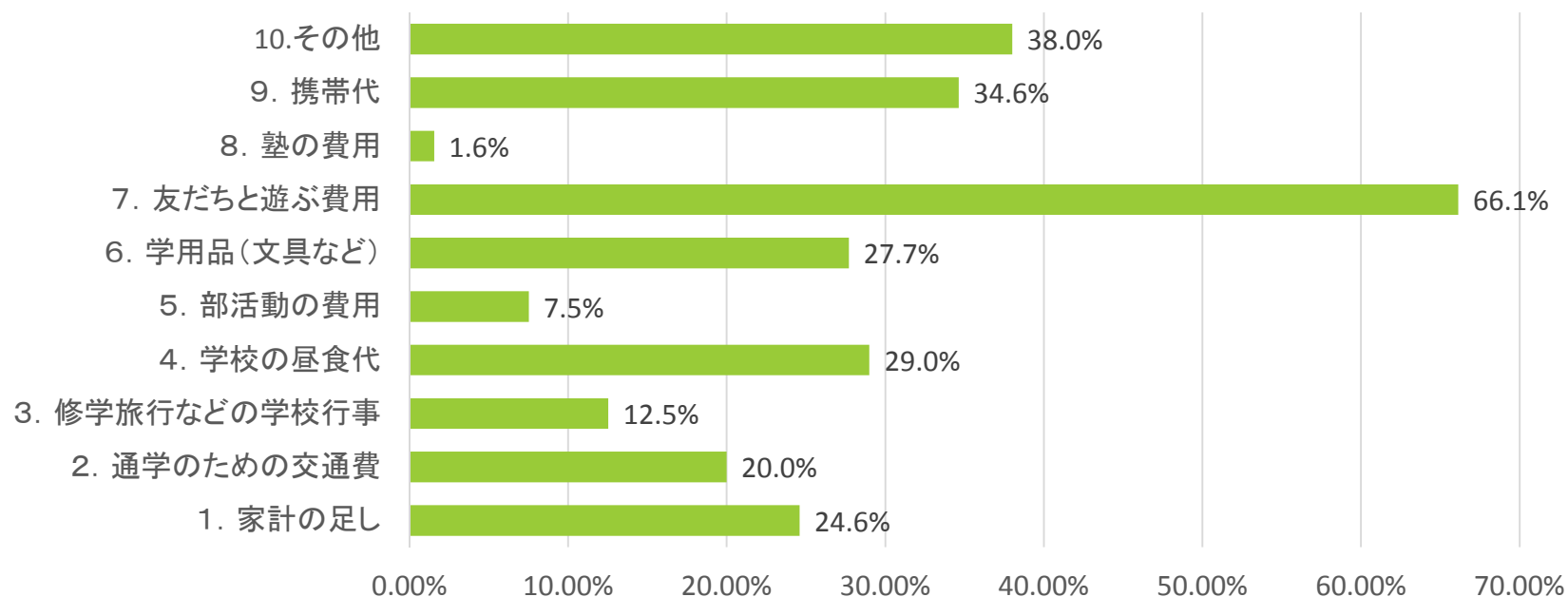
一週間当たりの就労日数



	2日以下	3日	4日	5日	6日以上	無回答	合計
困窮	18.9%	26.1%	26.1%	22.9%	4.4%	1.5%	100.0%
非困窮	22.2%	25.2%	25.5%	19.4%	3.4%	4.2%	100.0%
合計	20.9%	25.6%	25.8%	20.8%	3.8%	3.1%	100.0%

1週間に4日以上働いている割合は、困窮世帯で53.4%、非困窮世帯で48.3%と約半数に及ぶ。困窮世帯では、約4人に1人が「5日以上」働いている。

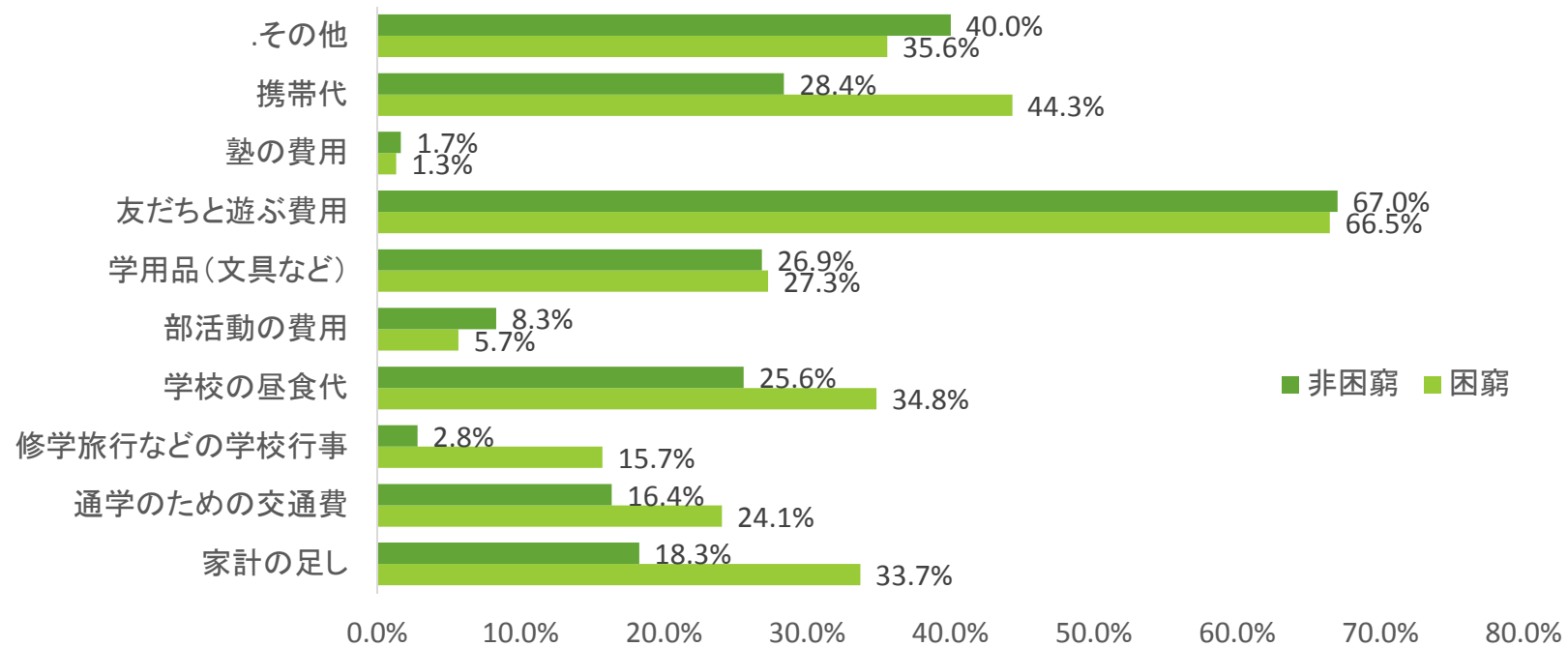
就労で稼いだ金銭の使途(全体)



	1. 家計の足し	2. 通学のための交通費	3. 修学旅行などの学校行事	4. 学校の昼食代	5. 部活動の費用	6. 学用品(文具など)	7. 友だちと遊ぶ費用	8. 塾の費用	9. 携帯代	10. その他
系列1	24.59%	19.99%	12.53%	29.00%	7.52%	27.71%	66.12%	1.56%	34.62%	38.01%

N=1476 複数回答

アルバイト収入の使用用途（複数回答）

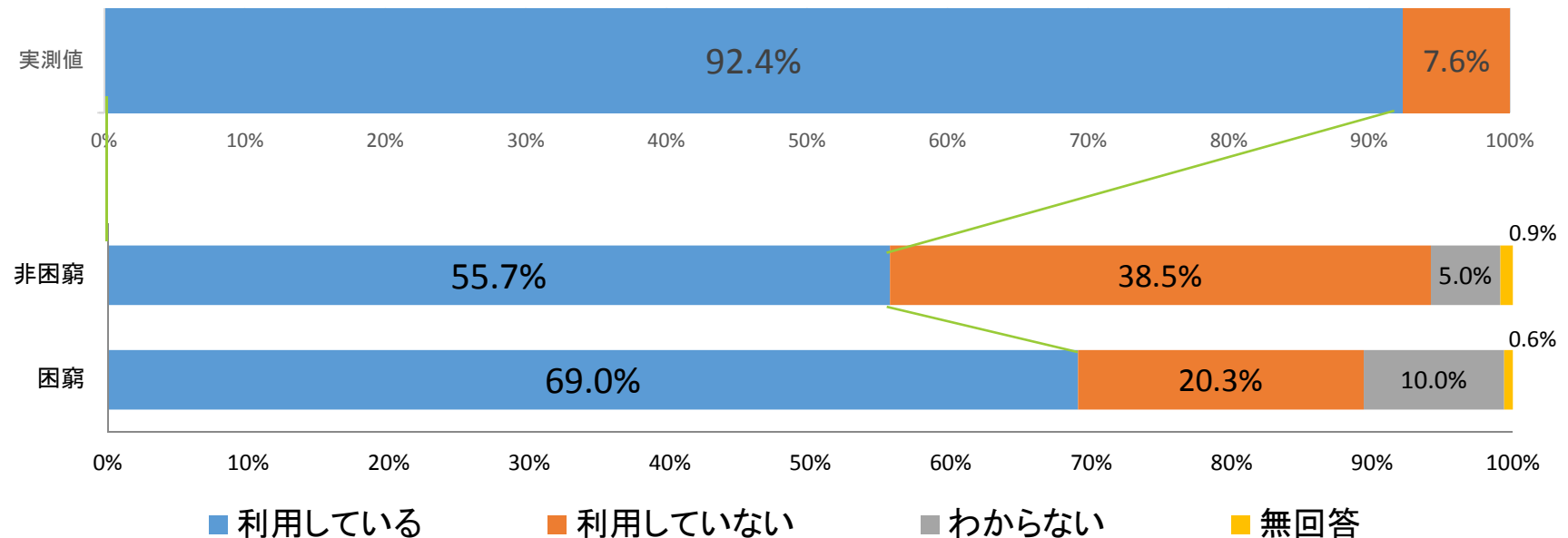


家計の足し・学校の昼食代にしている高校生は、困窮世帯では33.7～34.8%。交通費にあてている高校生も約4人に1人みられた。修学旅行などの学校行事では、困窮世帯と非困窮世帯で13%もの差異がみられた。

高校生等就学支援金制度

高校生等就学支援金制度^{*1}の利用状況

県実測値(H27県立高等学校)

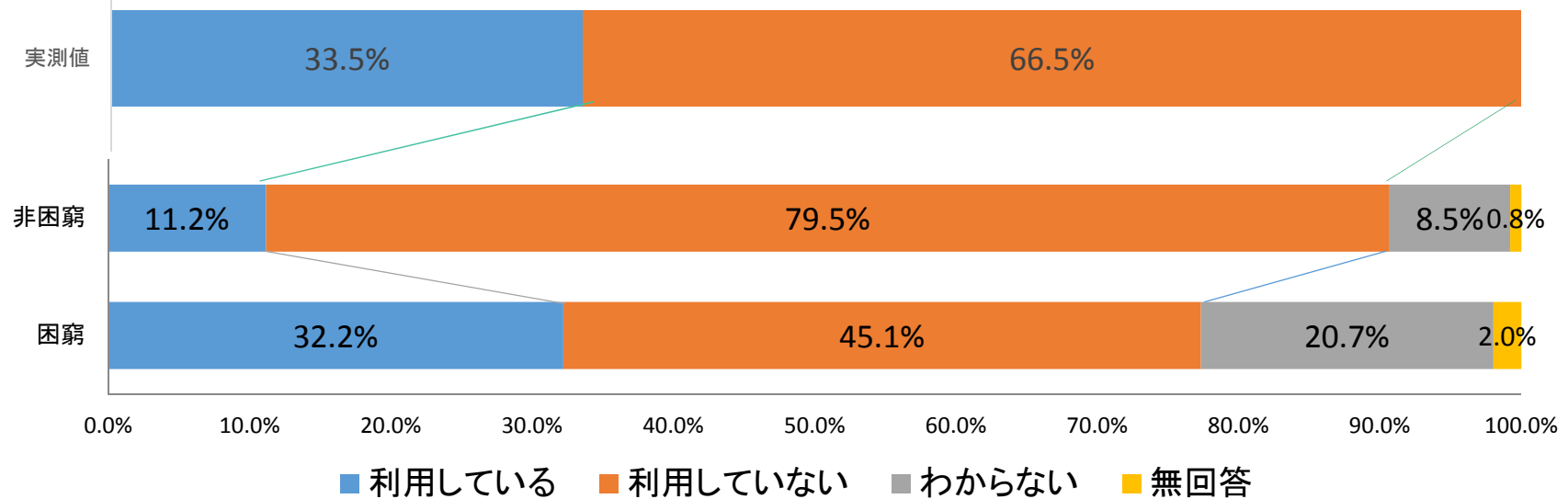


県の実測値92.4%に対して、保護者の回答は非困窮世帯で55.7%、困窮世帯で69.0%となっている。実際の制度利用への認識が低くなっていることがわかる。

(* 1) 国公立私立問わず高等学校等に通う一定の収入額未満(市町村民税所得割額が30万4200円未満※モデル世帯年収910万円未満)の世帯の生徒に対して、授業料に充てるため、国から、高等学校等就学支援金を支給する制度です。

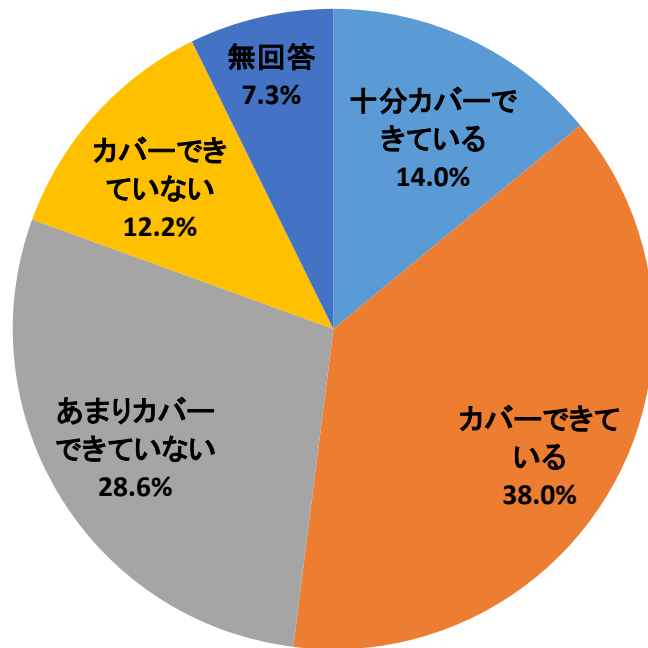
高校生等奨学給付金制度の利用状況

県実測値(H27県立高等学校)



困窮世帯で32.2%が利用している一方、制度の利用状況が「わからない」が20.7%。

高校生等奨学給付金制度について、学校にかかる経費をカバーできているか

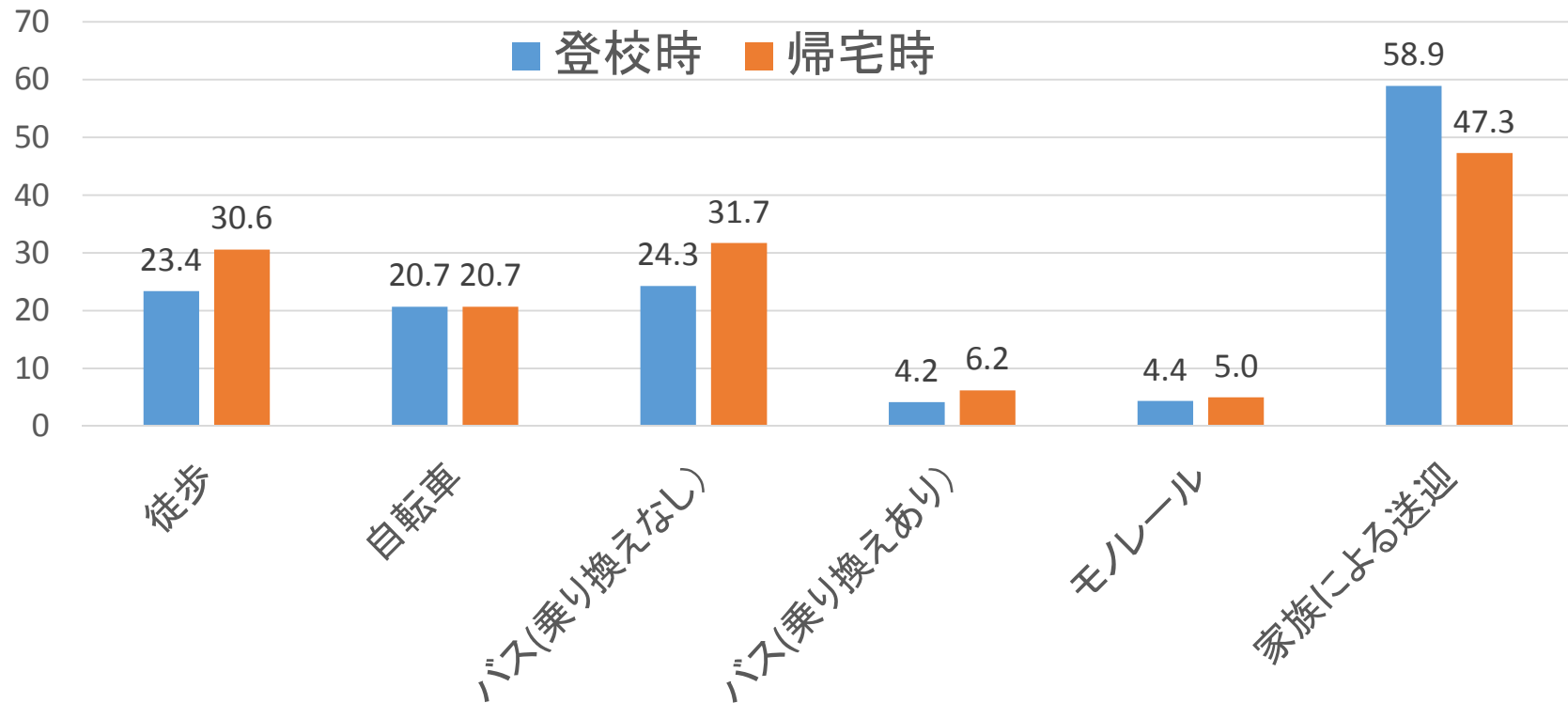


高校生等奨学給付金制度の利用者に、この支援制度で学校にかかる経費をカバーできているかを尋ねた。52.0%が「十分カバーできている」「カバーできている」と回答した一方、「あまりカバーできていない」「カバーできていない」と回答した世帯も40.8%みられた。

通学手段

登下校時の交通手段(%) (複数選択)

(質問全体に対する無回答(0.4%)を含む割合)

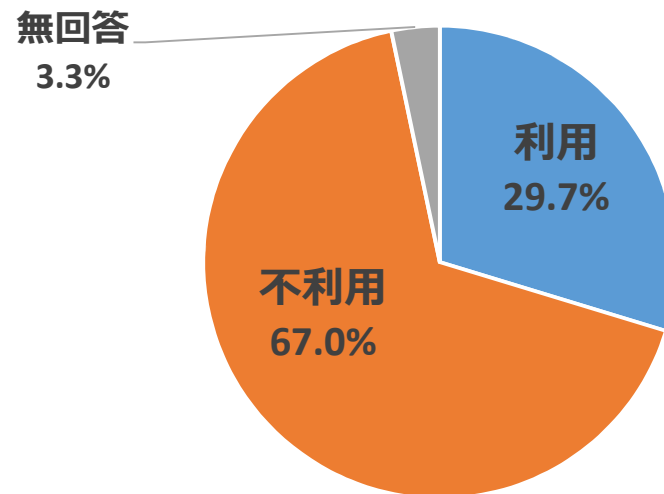


家族による送迎が多い。約半分の生徒が(少なくとも一部分は)家族による送迎によって通学している。バスについては、乗り換えなし・ありを含め28.5%から37.9%が利用している。

学割定期券の利用(%)

登校時または帰宅時にバスを利用し、学割定期券を利用している生徒の割合

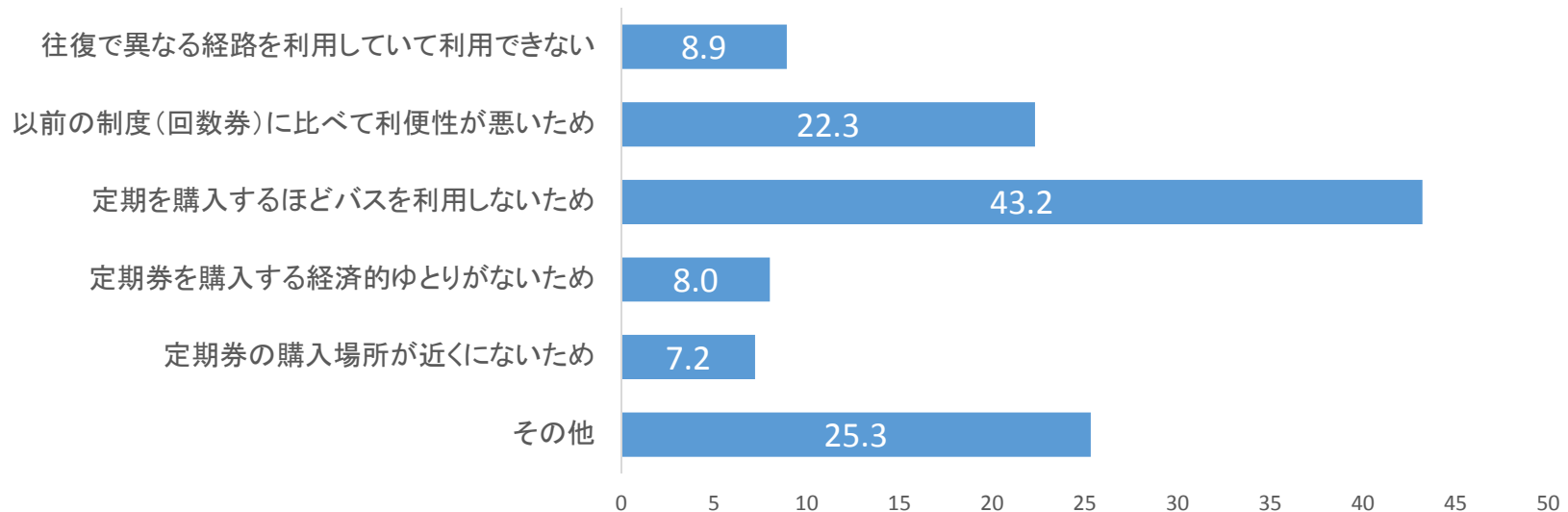
学割定期券の利用状況



バスを利用している生徒のうち、学割定期券を利用しているのは約3割でしかない。

学割不利用理由(複数選択) (%)

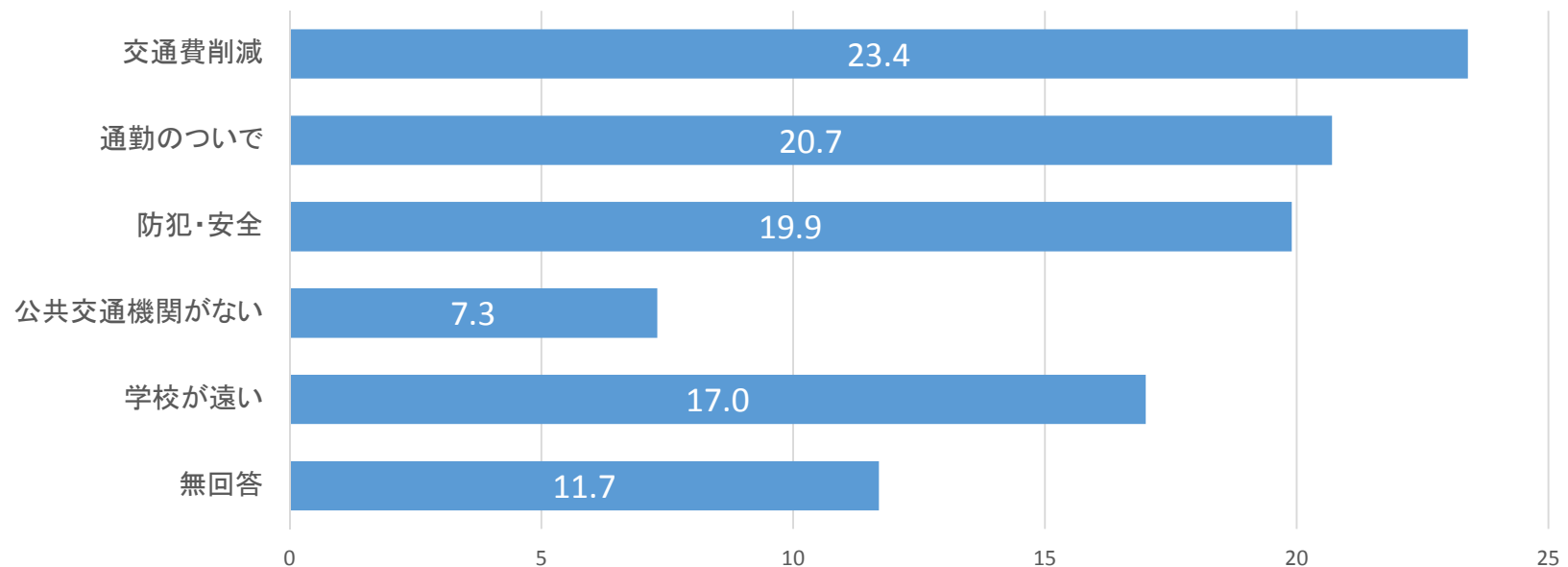
質問全体に対する無回答(2.3%)を含む割合
定期券を利用しない1122ケース内の分析



「定期を購入するほどバスを利用しないため」とする保護者が多い。一方、定期券の利便性を理由とする場合も一定の割合認められる。少数ながら(8%)、定期券を経済的に購入できないという回答もあった。

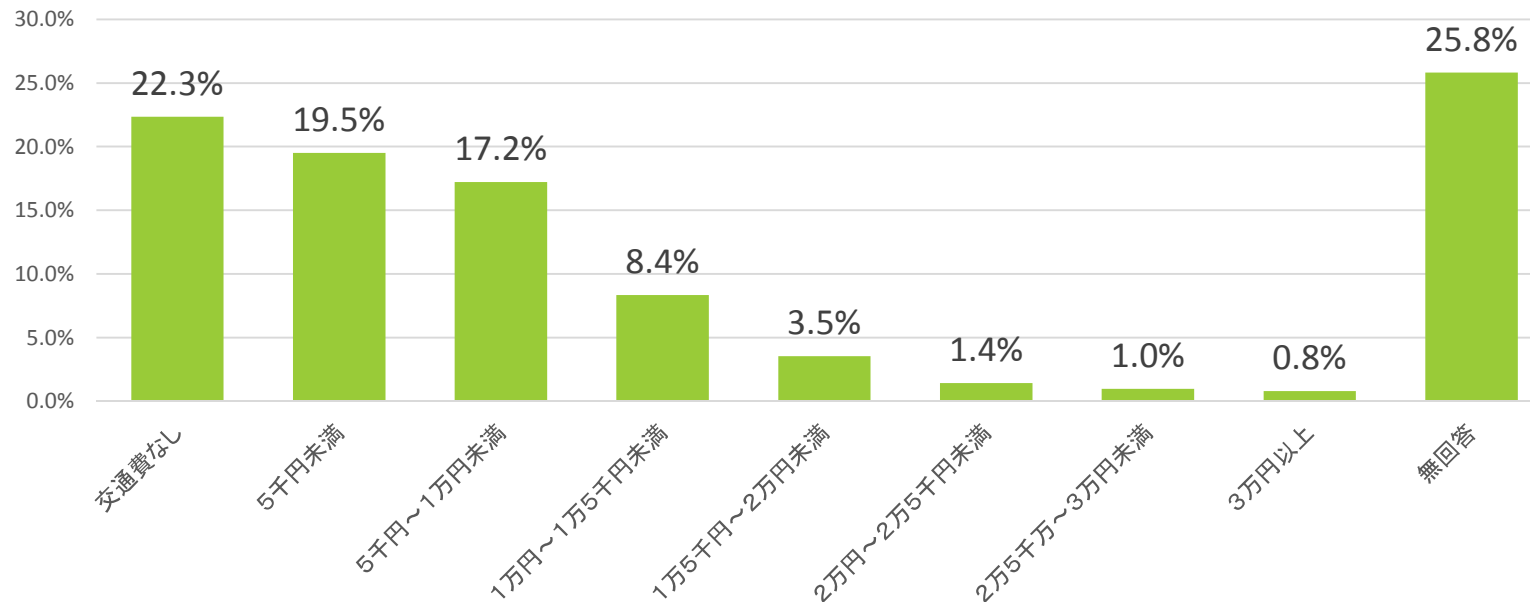
家族送迎の理由(ひとつのみ)(%)

家族送迎をしている2635ケースの内訳(11.7%の無回答含む)



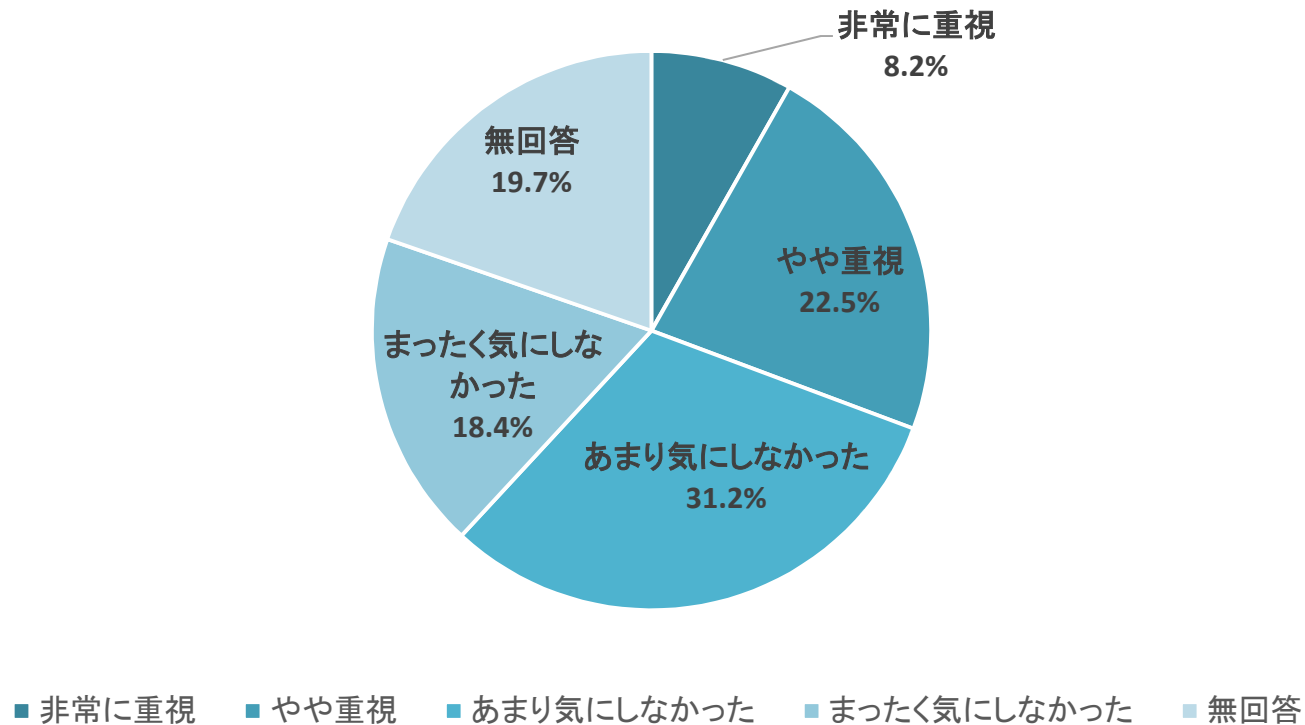
最も多いのは経済的理由(交通費削減)だが、学校が遠い、交通機関がないなど学校の設置場所、交通機関の不便さに関する物理的な障害を理由としてあげる場合も一定数に及んでいる。

一か月あたりの通学のための交通費



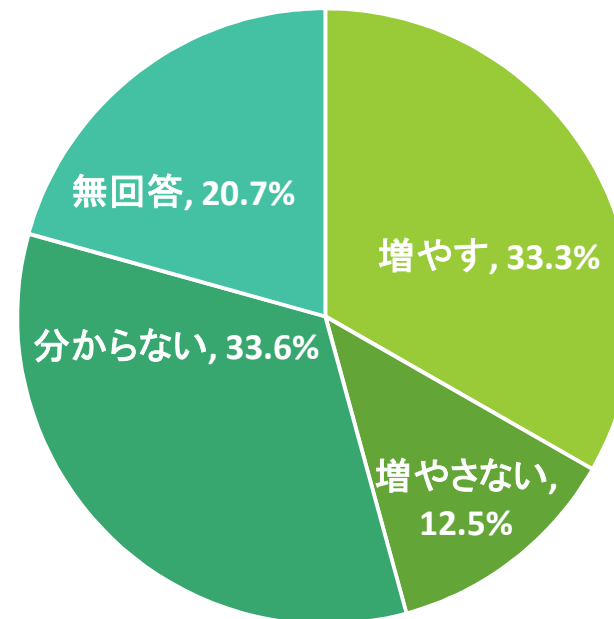
5千円未満の通学交通費の世帯が41.8%となっている。5千円以上の世帯が32.3%となっており、高校通学にあたり地域の中学校に在学中には発生していなかった費用負担が伺える。

通学交通費の負担は、高校進学の際の選択材料となっていましたか(ひとつのみ)(%)



高校進学を選択材料として考慮した保護者は30%程度で、多くは重要視していない。

今後、通学交通費の負担軽減などがあった場合、バスやモノレールなどの公共交通の利用を増やしますか
(ひとつのみ)

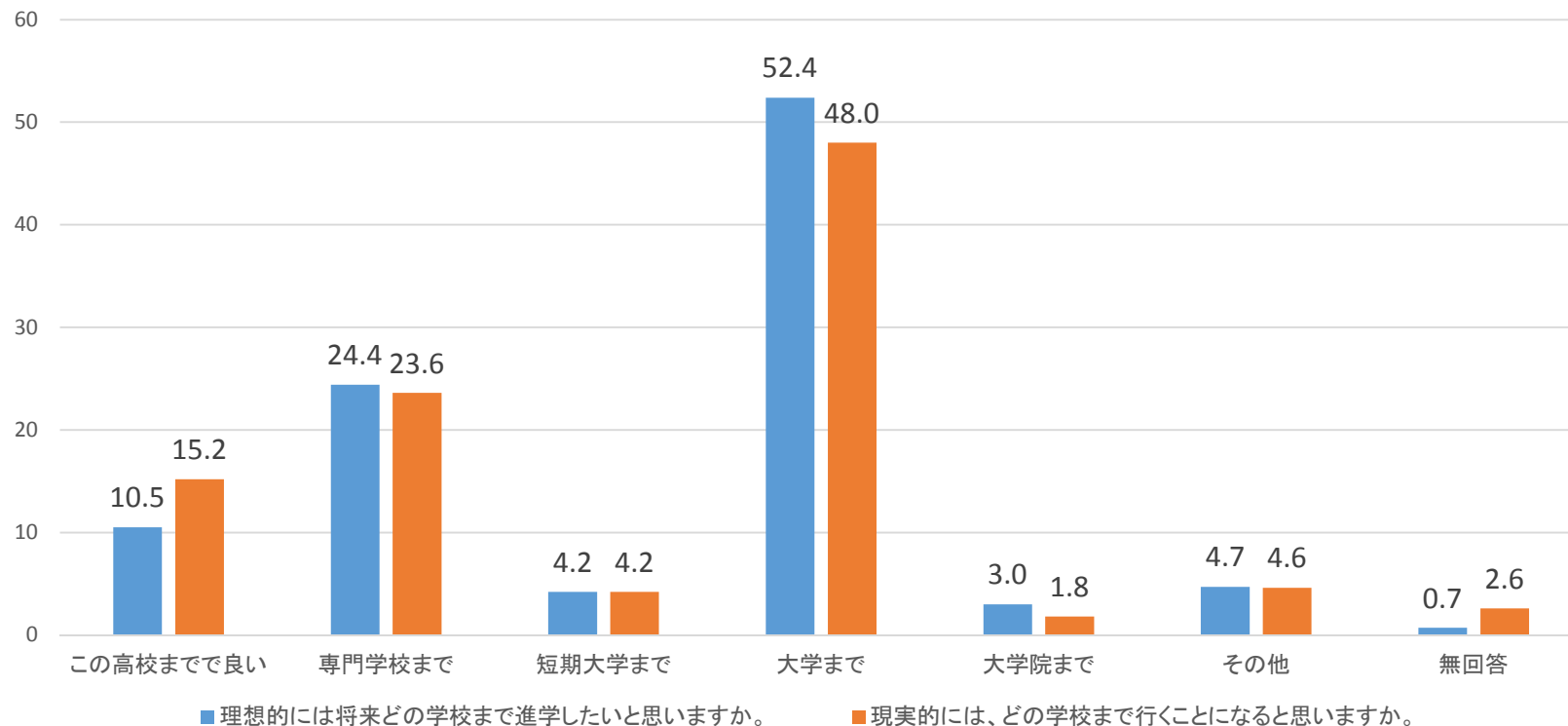


負担軽減があった場合、公共機関の利用を増やすと答える保護者は、33.3%に及んでいる。ただし、無回答、分からないという回答者が多く、現実には何らかの負担軽減措置があった場合は、公共機関の利用は増える可能性はある。

進路・進学・就職

質問紙作成にあたって以下の調査を一部参考にさせていただいています。
東京大学大学院教育学研究科・大学経営・政策研究センター
「高校生の進路についての調査」
[HTTP://UMP.P.U-TOKYO.AC.JP/CRUMP/CAT77/CAT81/POST-1.HTML](http://ump.p.u-tokyo.ac.jp/crump/cat77/cat81/post-1.html)

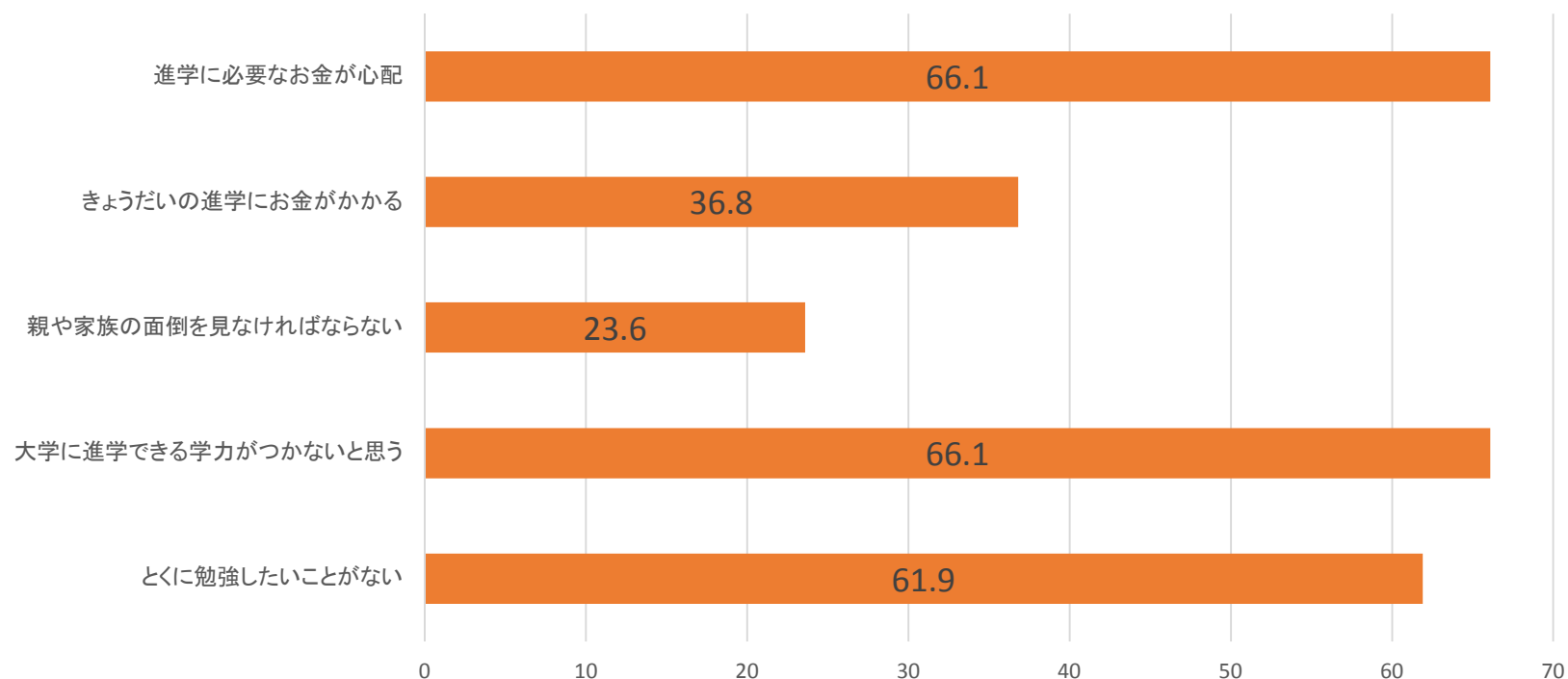
理想と現実の進学(%)



理想的には半数以上の生徒が大学までの進学を希望しているが、現実的には4%－5%程度大学進学は減り、その分が高校まででよいとする回答が増える。

「この高校まで」の理由(複数選択) (%)_{n=657}

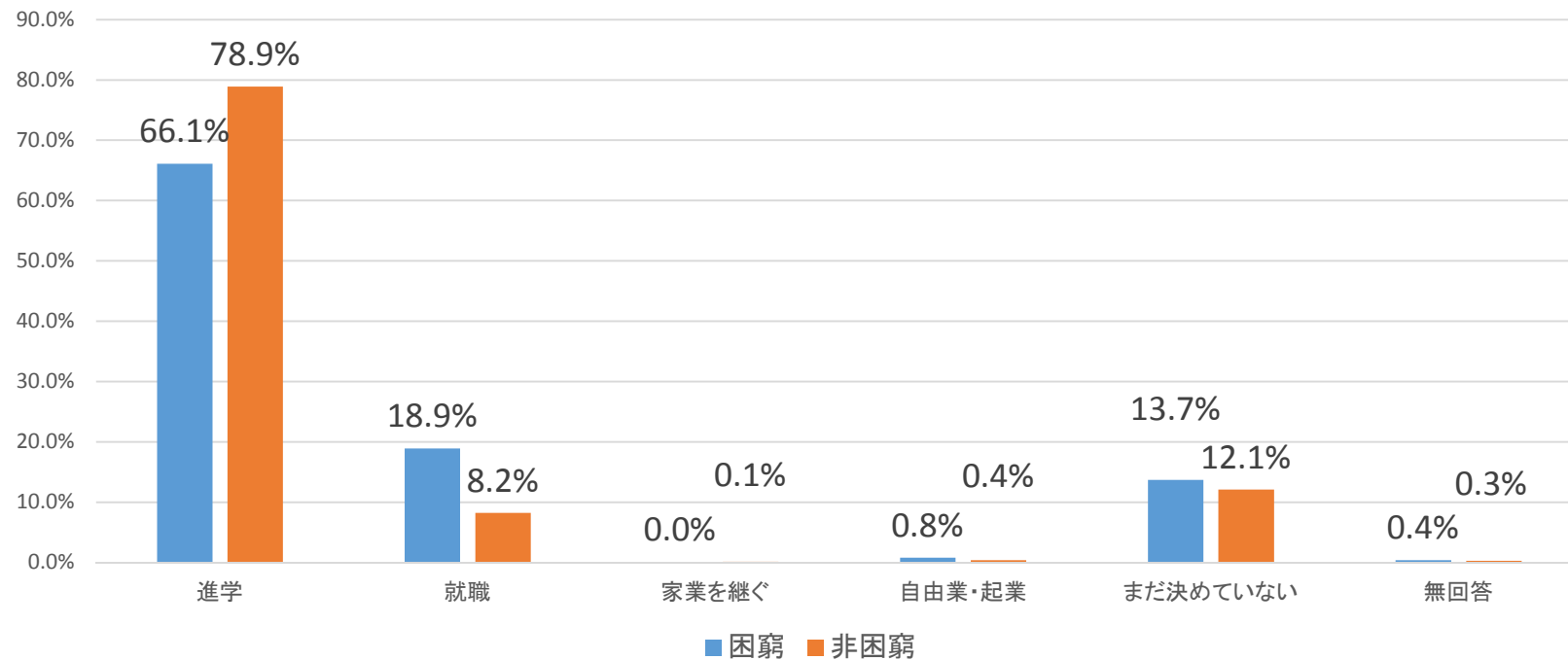
「とても思う」+「やや思う」の割合



理由としては、学力や意欲面をあげる場合も半数を超えるが、経済的な理由も多くを占めている。家族に迷惑をかけたくない、家族に対する援助の必要性を理由とする生徒も一定数存在する。

進路についての生徒の考え方

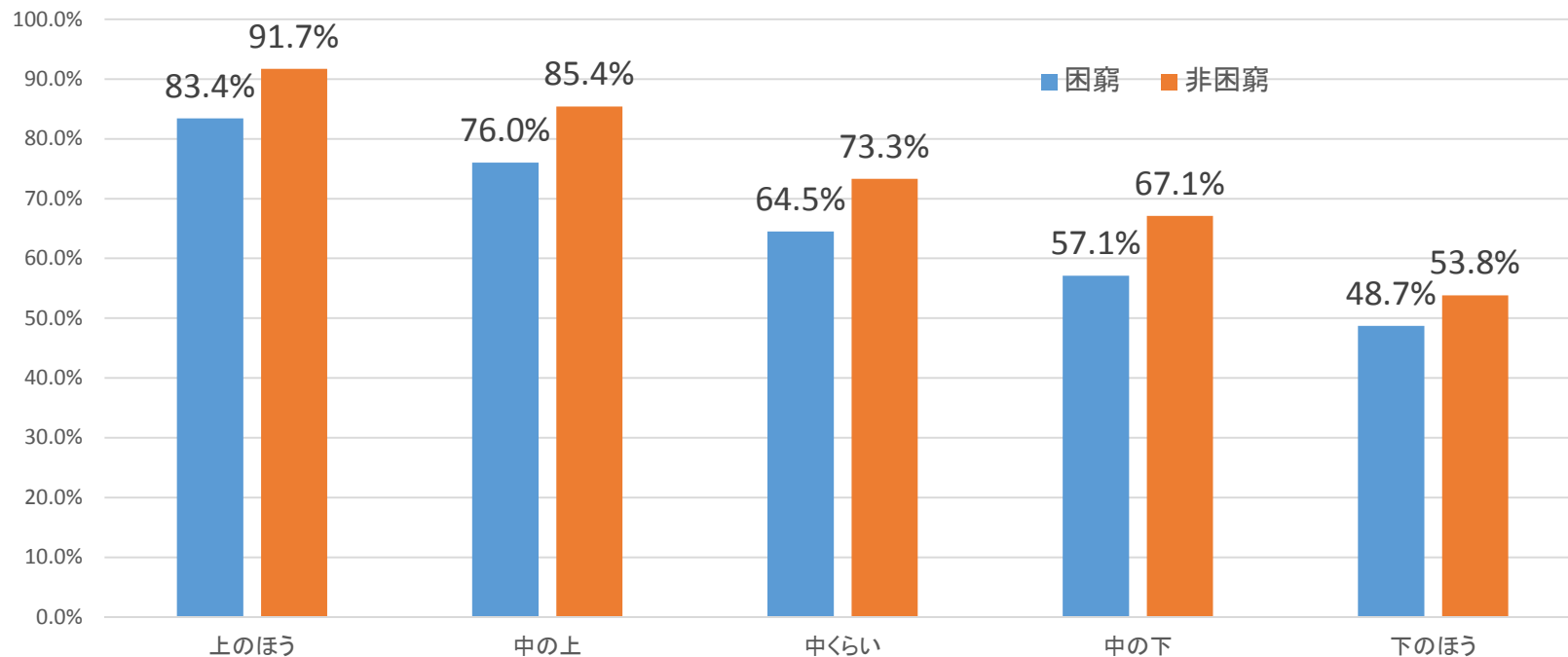
経済状況による違い(ひとつずつ)



進学または就職の選択については、経済状況によって明確な格差が認められる。

進学希望の割合（生徒）

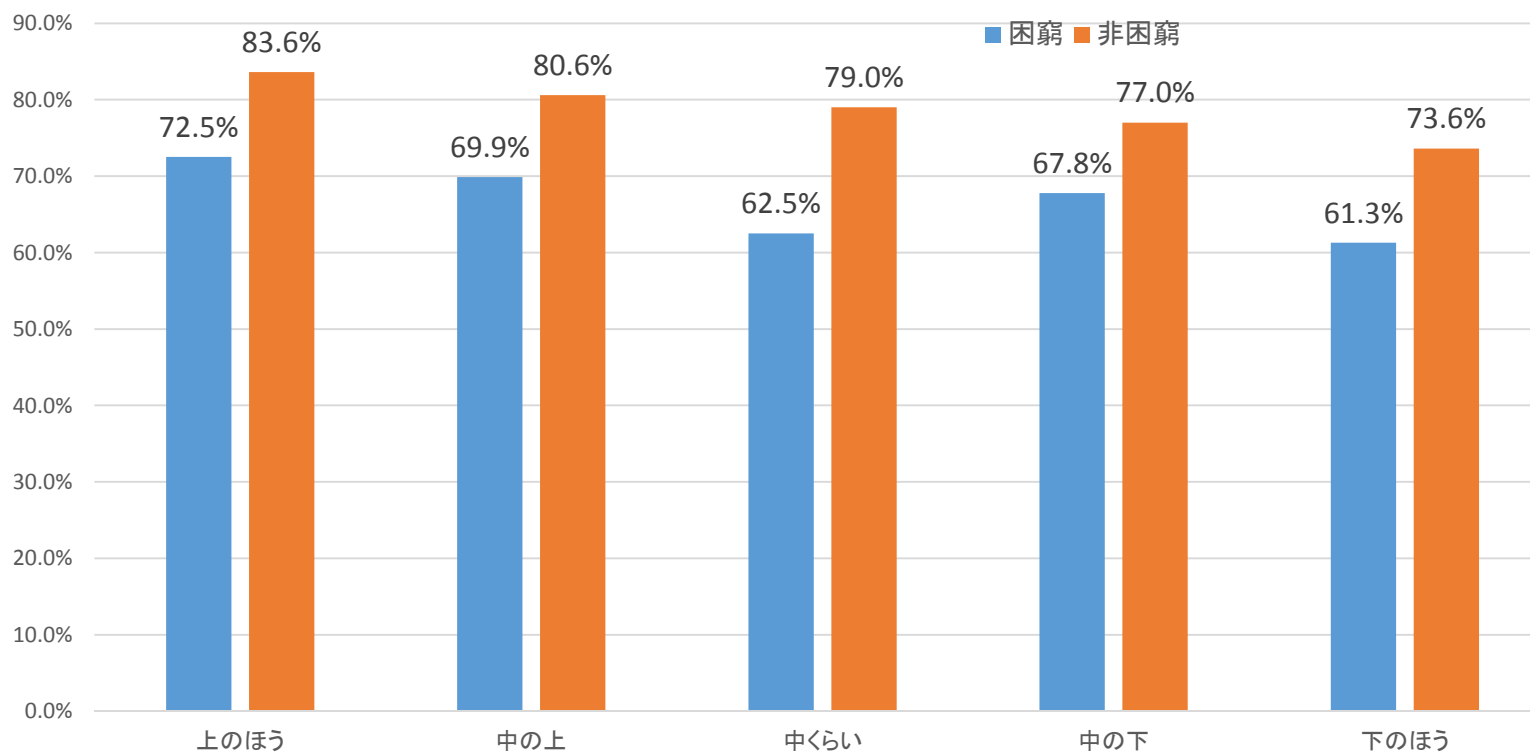
中3年時の成績＊経済状況別（％）



生徒の進学希望の割合には成績および経済状況によって差が見られる。成績が上のほう、中の上とする生徒も困窮世帯層はそうでない層と比べて進学希望率に8%－9%程度の差が見られる。

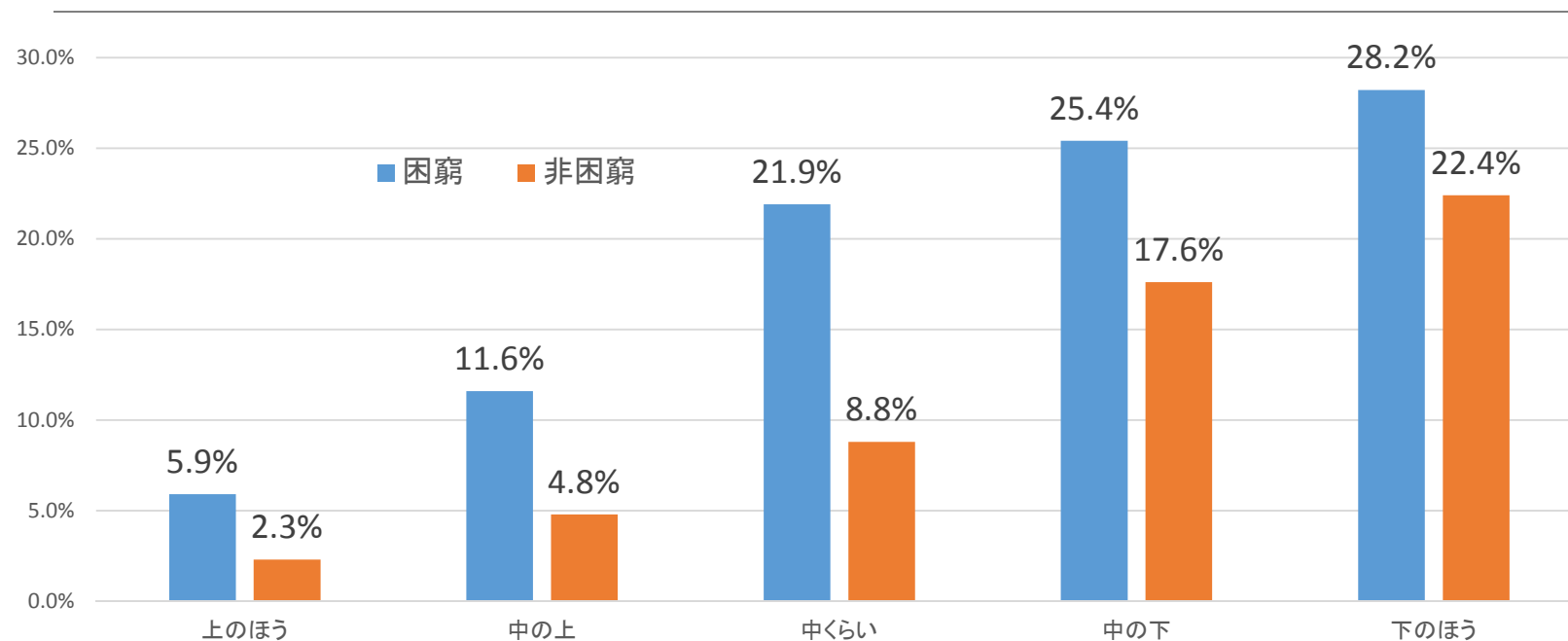
進学希望の割合(生徒)

現在の成績 * 経済状況別 (%)



就職希望の割合（生徒）

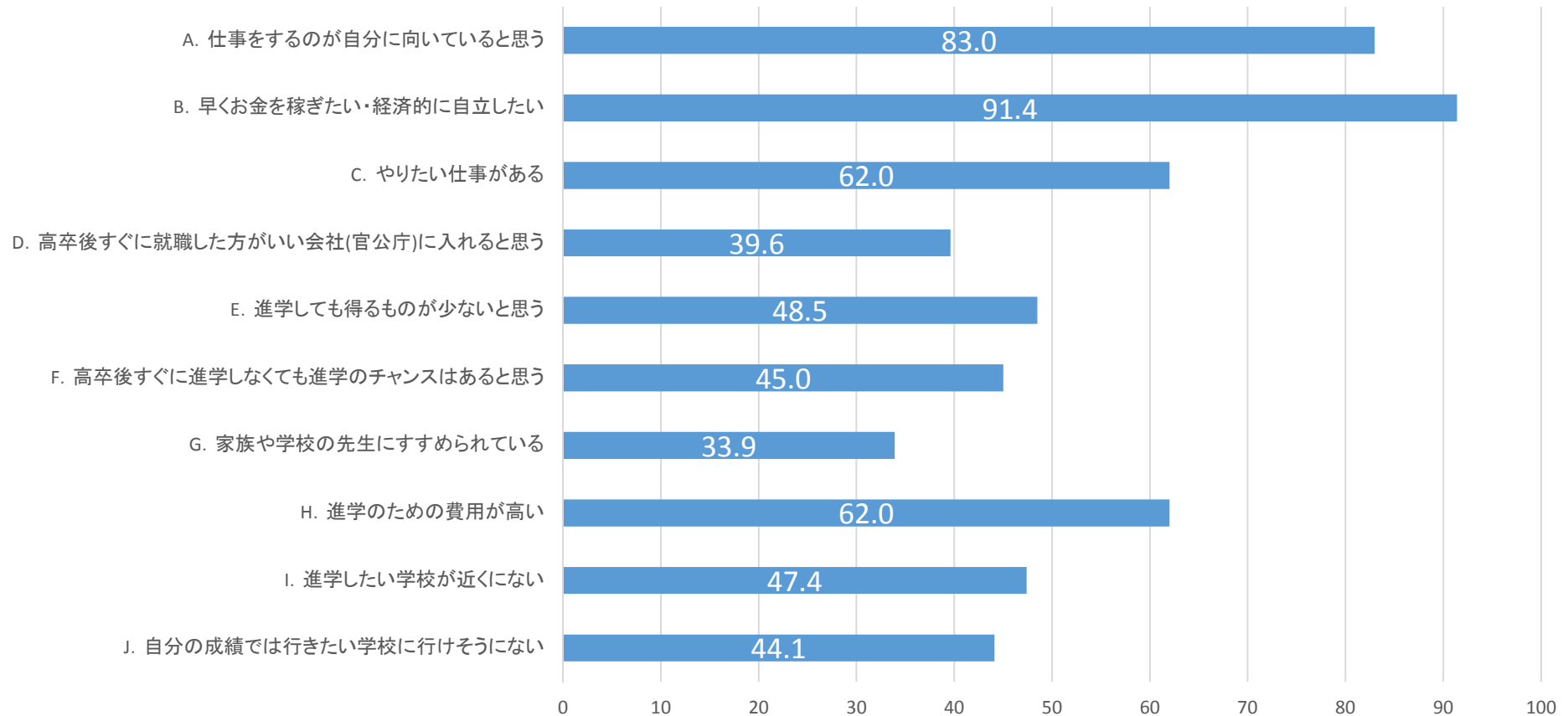
中3時の成績 * 経済状況別 (%)



就職希望の割合についても成績と経済状況によって差が見られる。特に、成績が中くらいの生徒で経済状況による差が顕著に見られる。

就職の理由 n=487 (それぞれ一つずつ)(%)

「とてもあてはまる」+「あてはまる」

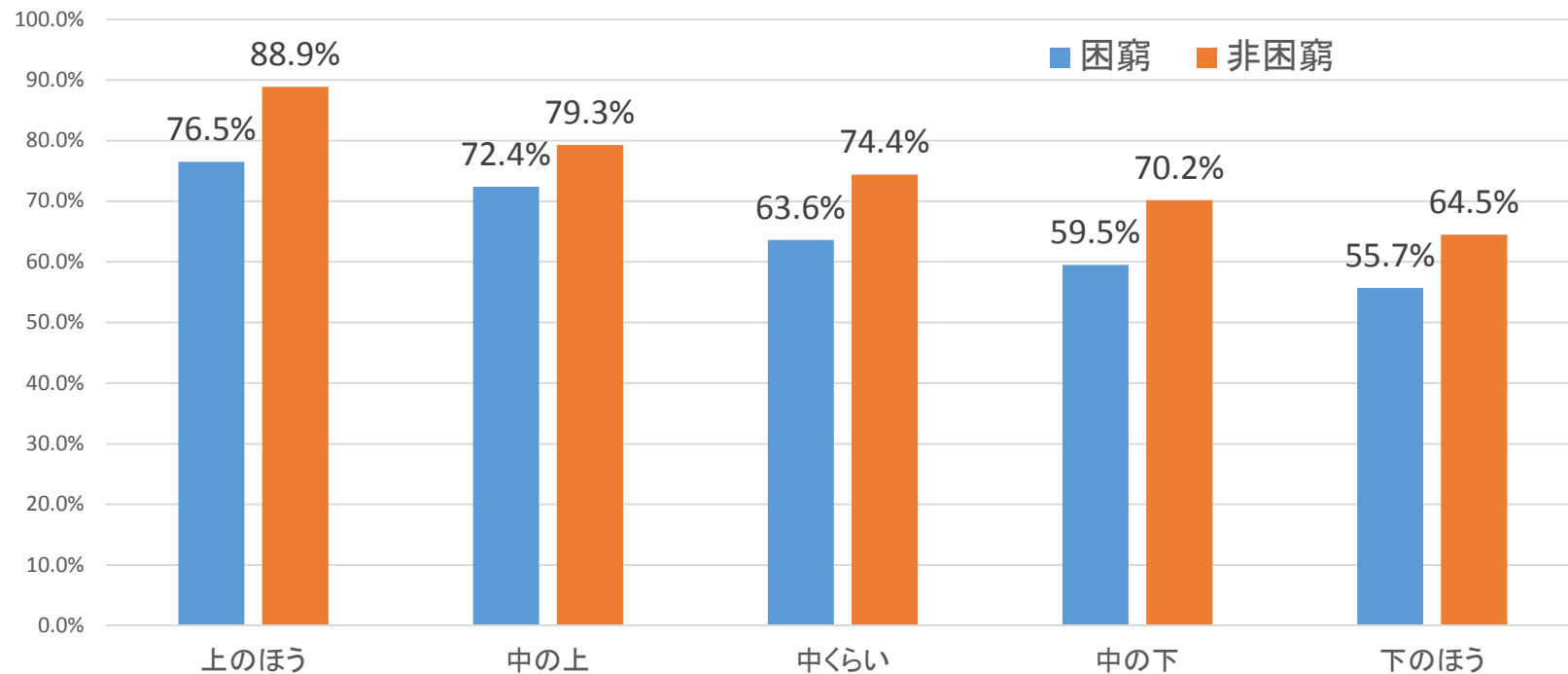


仕事をするのが自分に向いているなど積極的な理由で就職する生徒の割合が高い。しかし、進学費用の高さを理由とする割合も62%に及んでいる。

保護者の第一希望進路が「進学希望の割合」

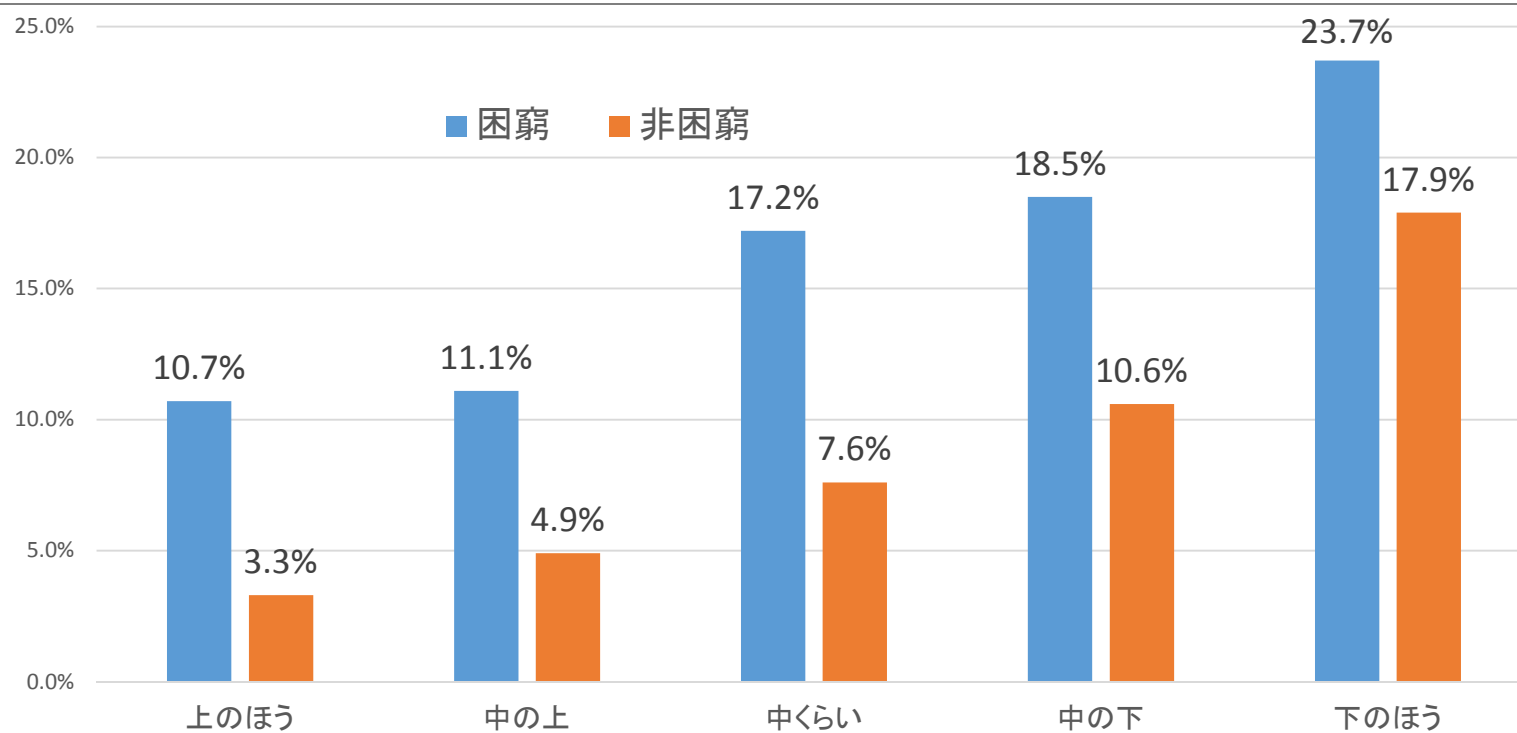
(大学＋短大進学＋就職しながら進学)

中3年時の成績＊経済状況別



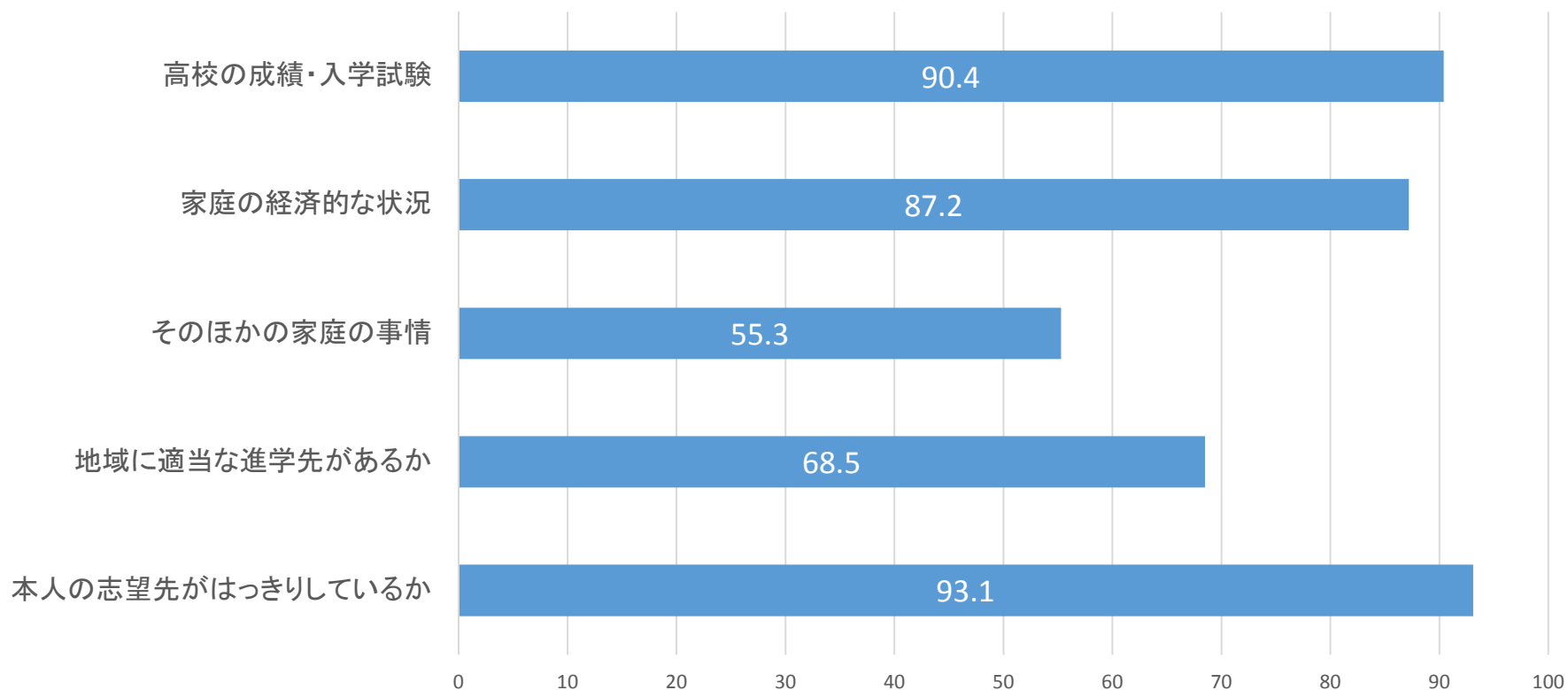
保護者による希望においても、生徒の成績、経済状況による進学希望割合の格差は見られる。成績が上のほうについては、経済状況によって12%の差が見られ、生徒自身による差よりも大きい。

保護者の第一希望進路が「就職希望の割合」 (就職のみ、就職しながら進学を含まず) 中3年時の成績*経済状況別



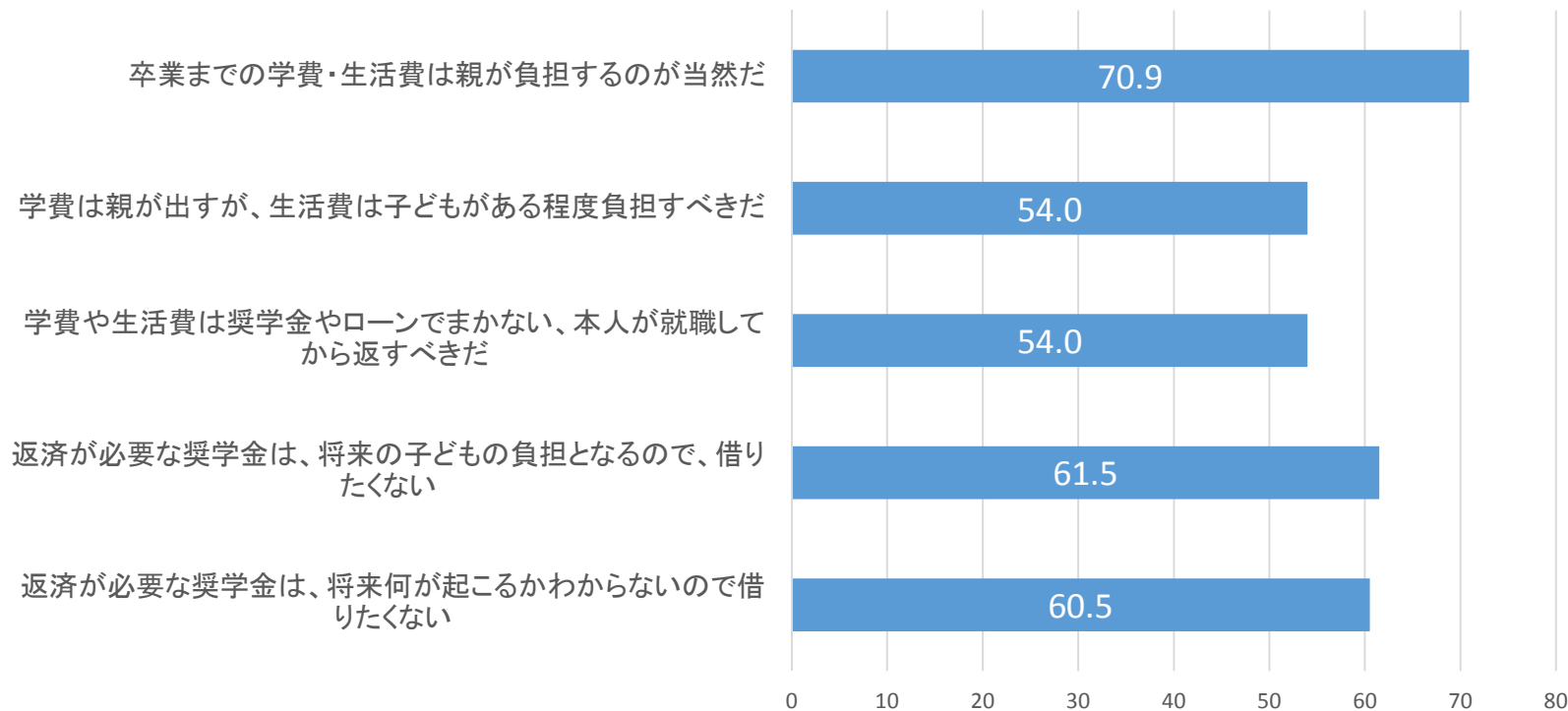
保護者の意識としても、成績、経済状況によって就職希望の割合には差が見られる。成績が上のほうでも保護者は10%程度、就職を希望している。

「子どもの進路を決める際、次の項目をどの程度考えるか」(保護者)
 「とても考える」+「やや考える」の割合(%)



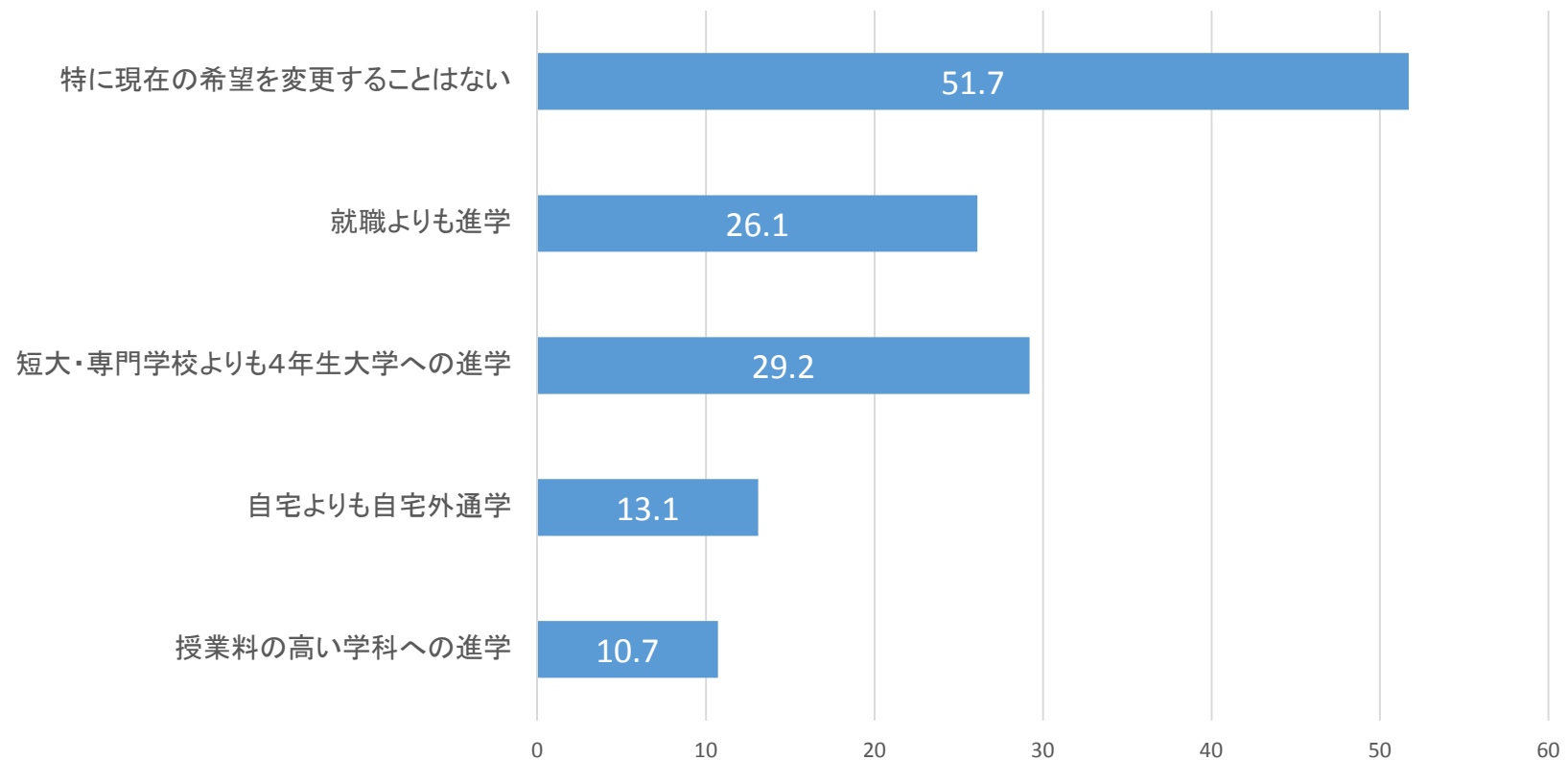
成績や本人の意志を大事にしている。一方で経済状況も考慮する要因になっている。

(進学を考えていない場合もふくめ、進学を想定してすべての保護者に対して)
「大学や専門学校の学費について以下の項目をどう考えるか」
「強くそう思う」+「そう思う」の割合 (%)



卒業までの学費・生活費は親が負担するのが当然だと思う保護者は多い。また、返済の必要な奨学金を借りることを不安に思う割合は高い。

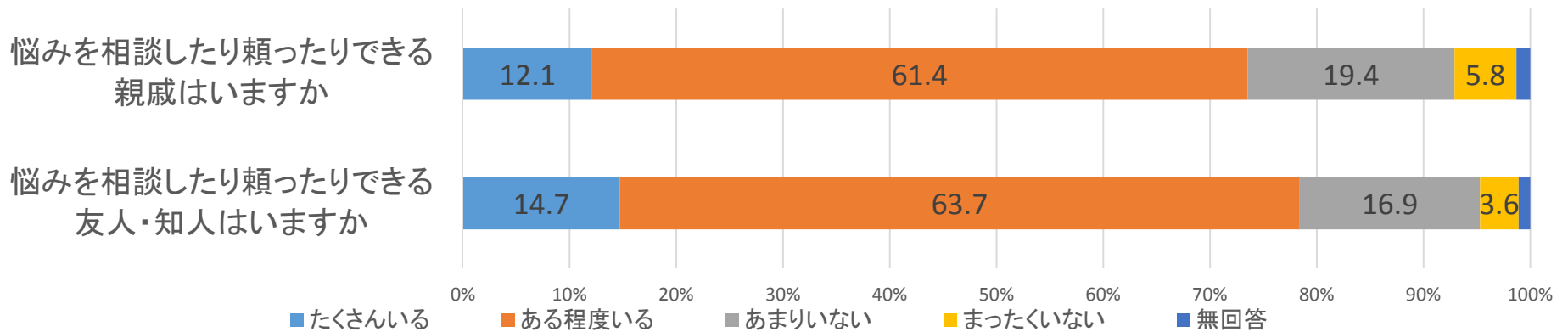
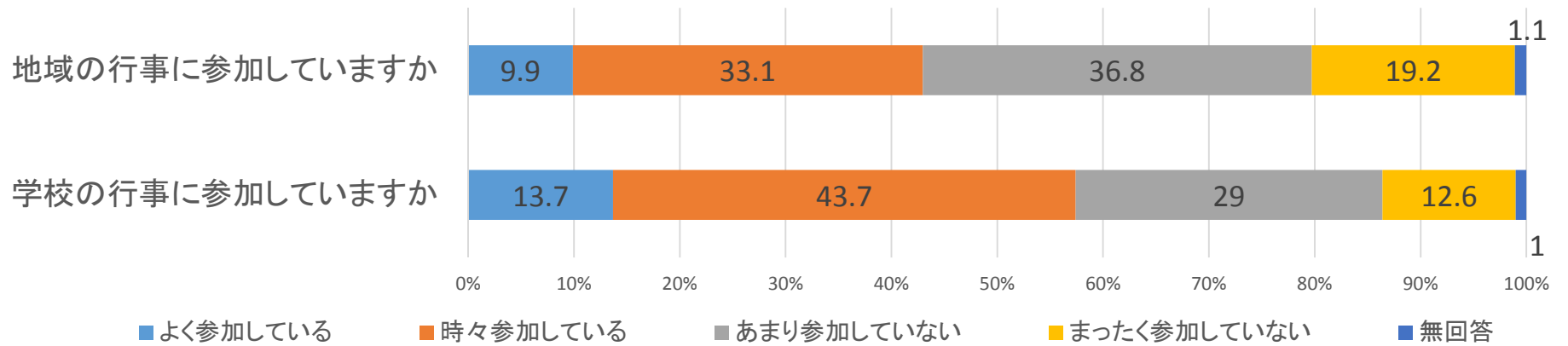
現在よりも経済的にゆとりがあるとしたら、何をさせてあげたいか(複数選択)(%)



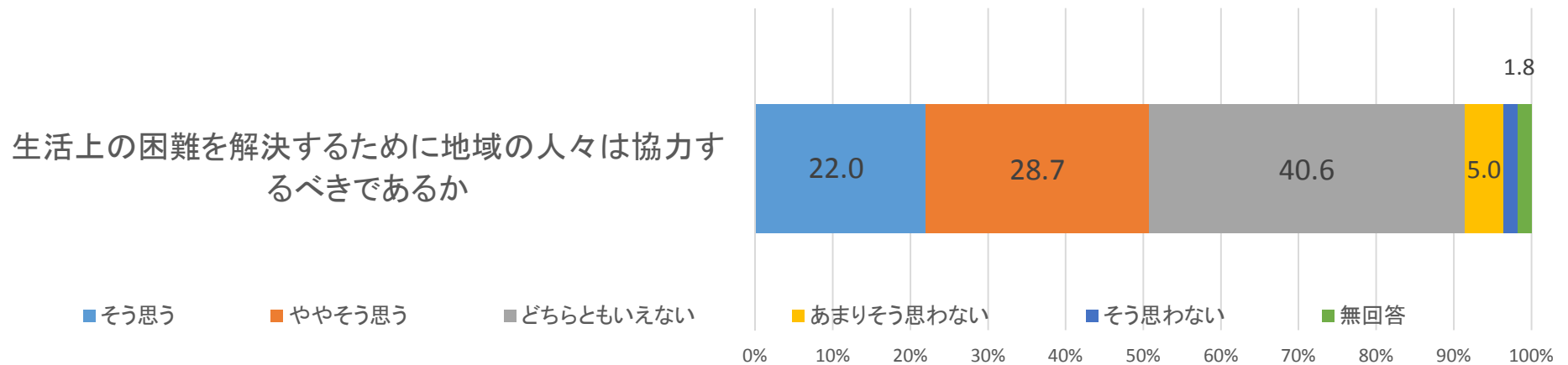
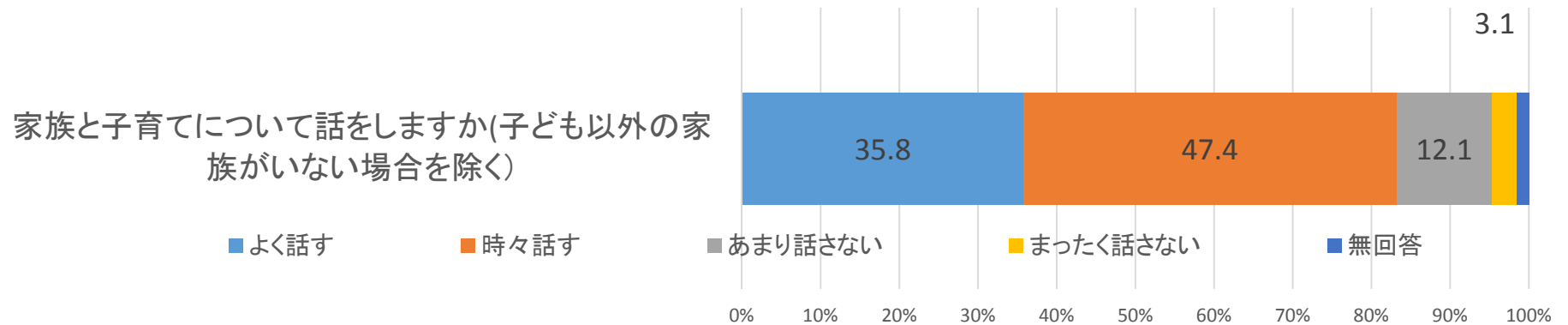
経済的に余裕があれば、就職より進学を希望する保護者は26.1%に及んでいる。

地域・知人との関係

地域・知人等との関係(1)(%)



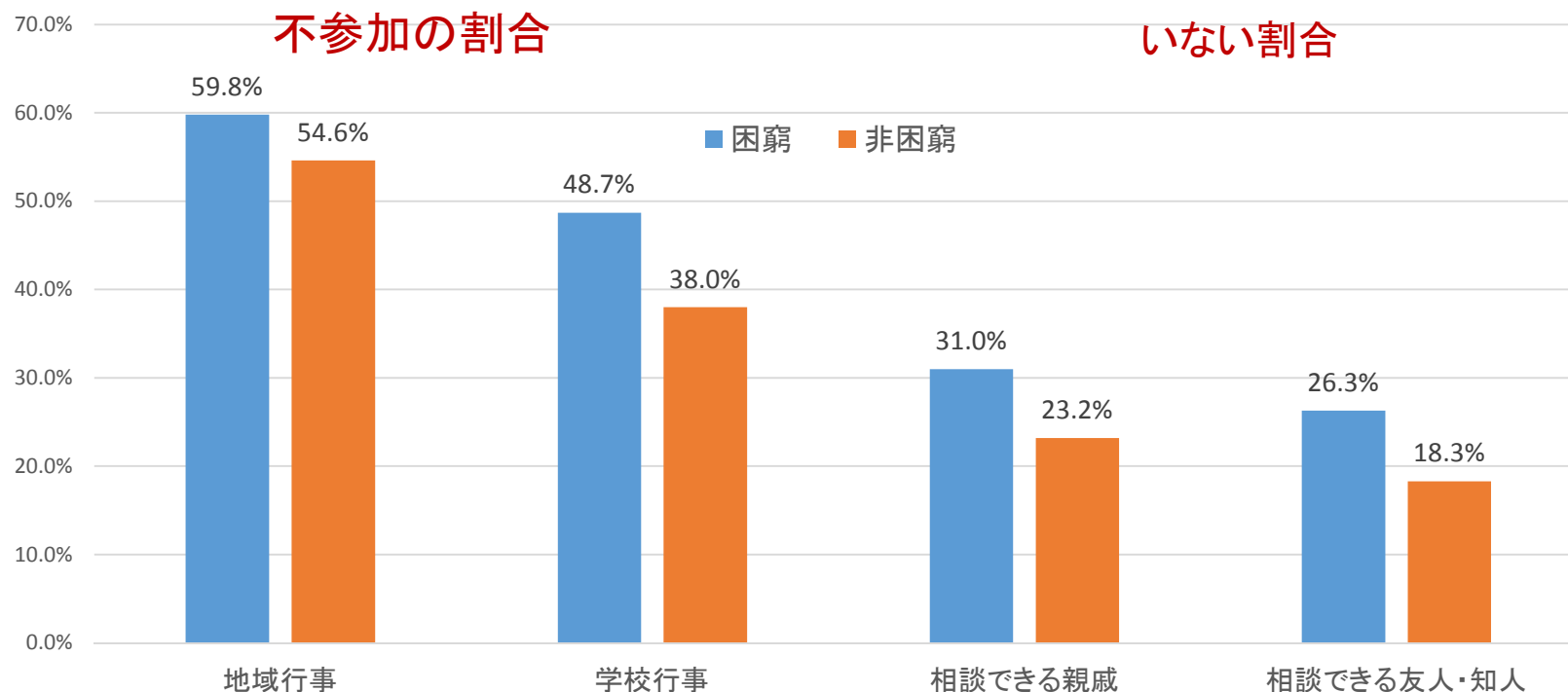
地域・知人等との関係(2) (%)



行事参加、親類・知人の存在 (%)

経済状況別

「参加していない」+「あまり参加していない」
「まったくいない」+「あまりいない」



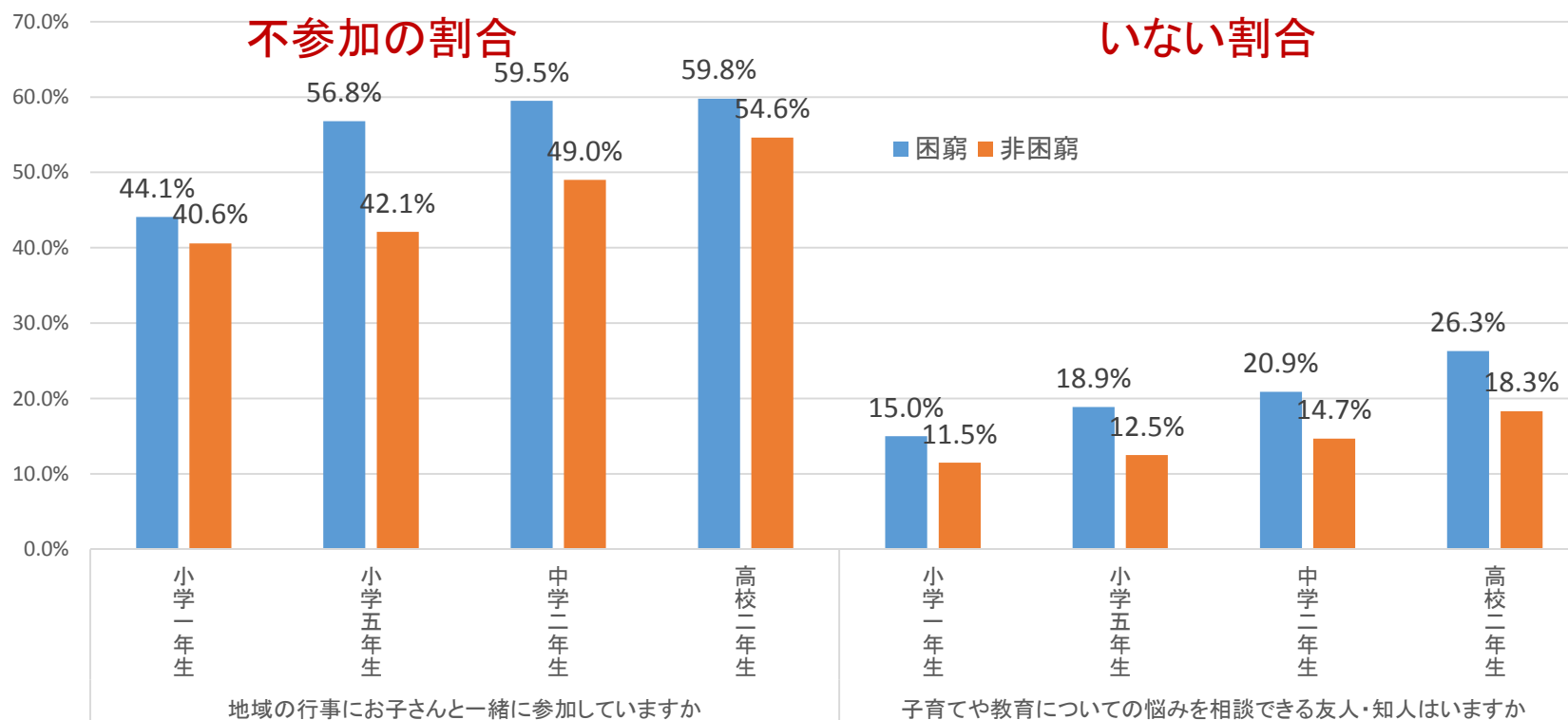
地域・学校行事に参加していない割合、相談できる親戚・知人がいない割合は経済状況によって差が見られる。

地域・知人との関係 経済状況 ＊ 学年ごと

保護者票

小1から中2は昨年調査

「参加してない」+「あまり参加していない」
「まったくいない」+「あまりいない」

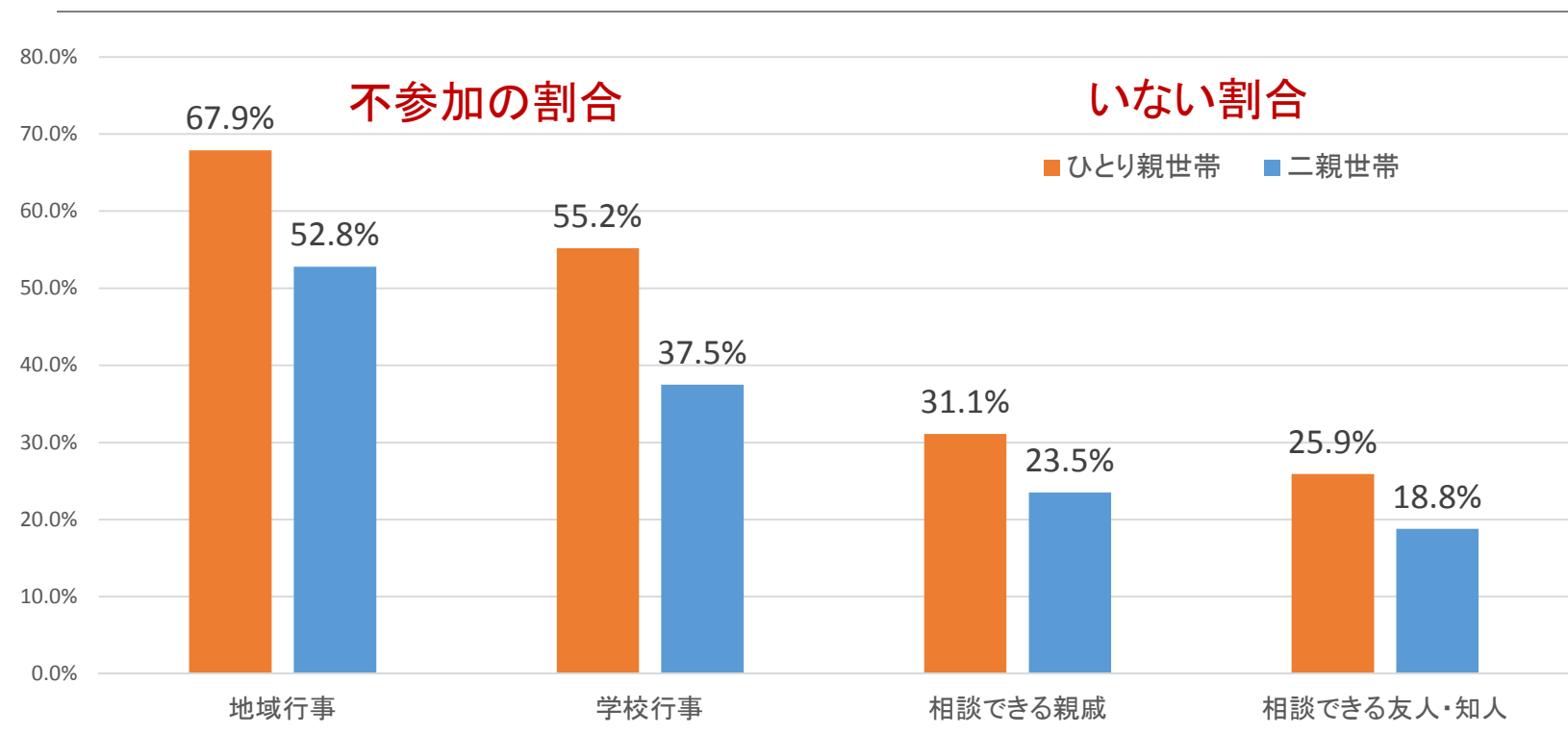


行事への参加(不参加)、友人・知人の存在(いない)はともに学年が上がるにつれて割合が増える。また、どの学年も経済状況で差がある。

行事参加、親類・知人の存在 (%)

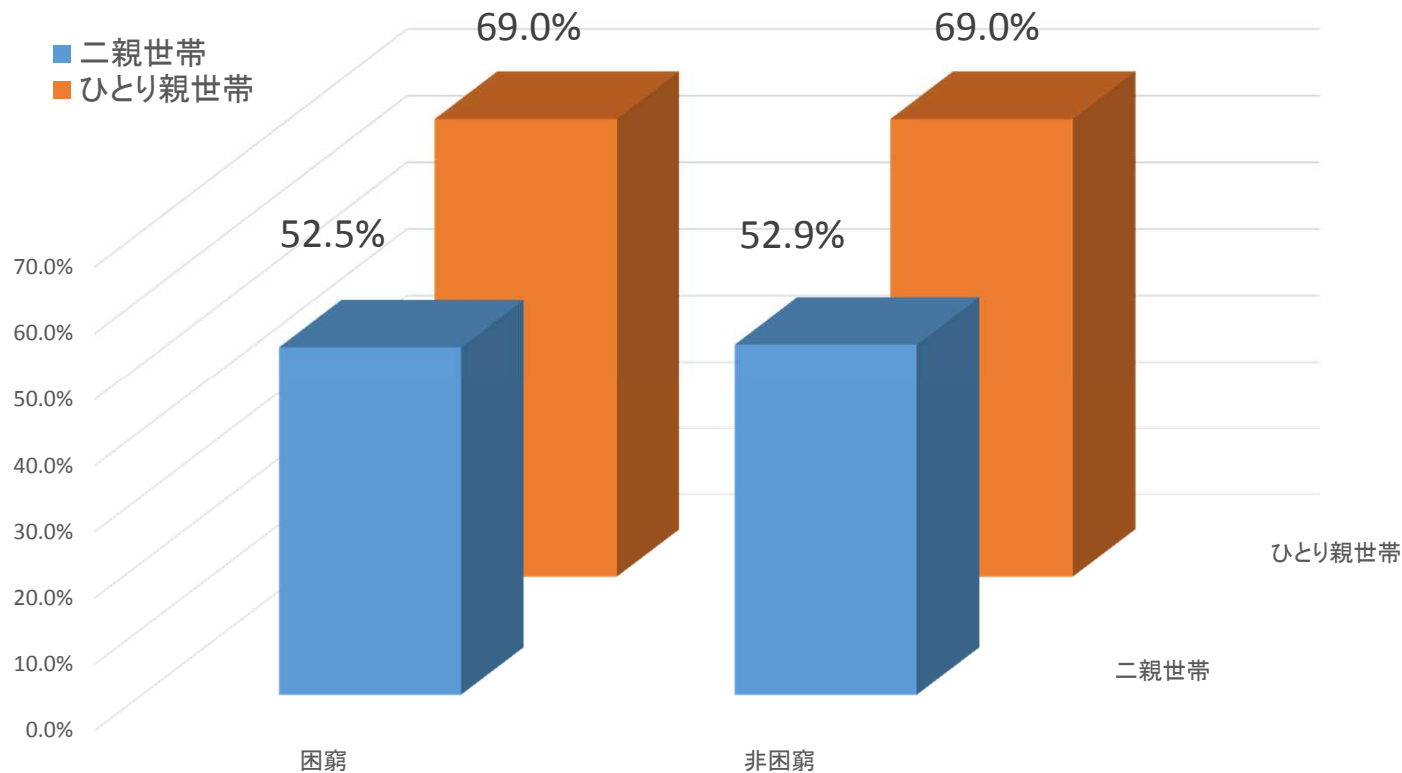
世帯構成別

「参加してない」+「あまり参加していない」
「まったくいない」+「あまりいない」



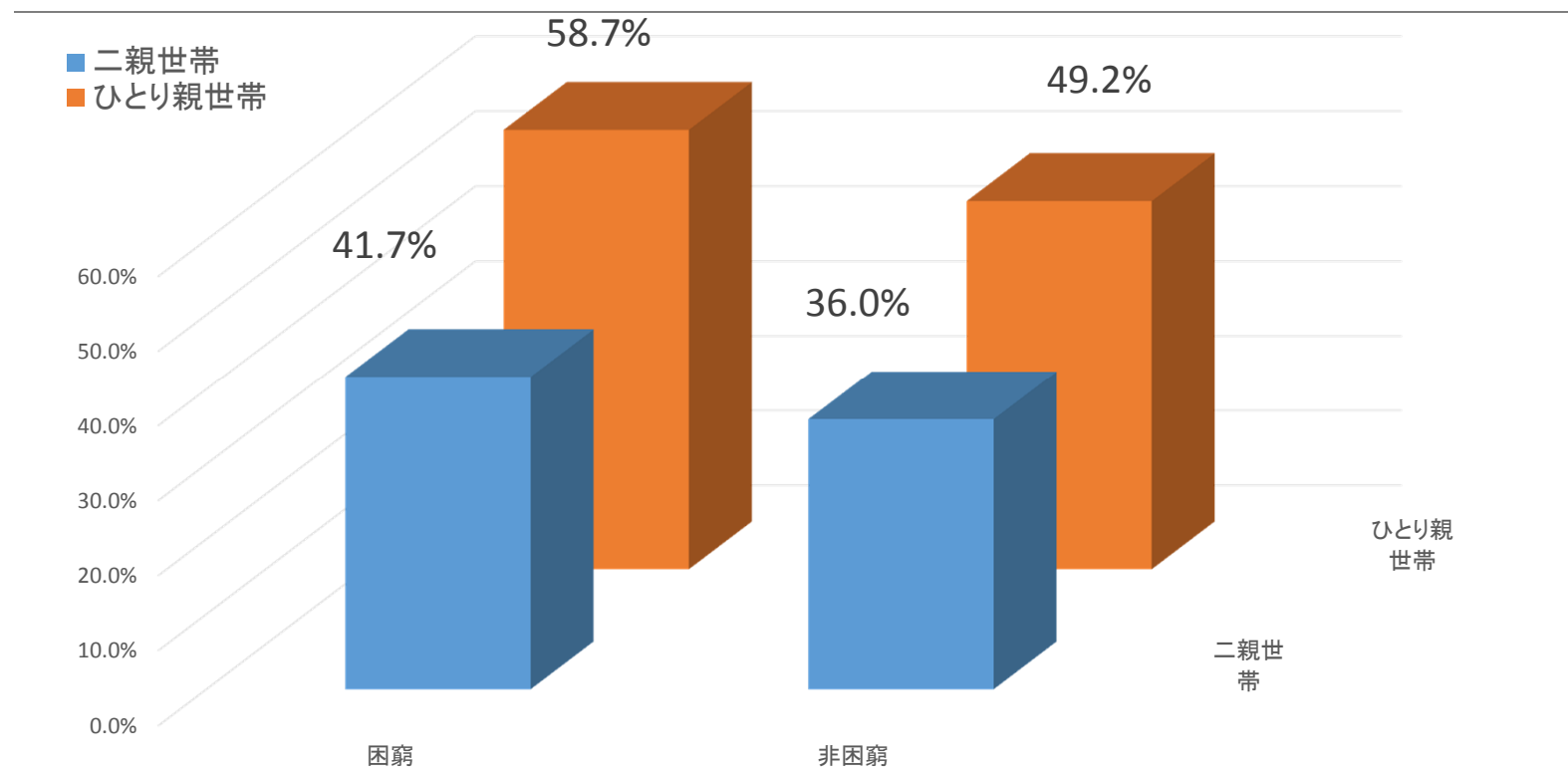
地域・学校行事に参加していない割合、相談できる親戚・知人がいない割合は世帯構成(ひとり親・二親世帯)状況によって差が見られる。

地域の行事への参加（参加できない割合） 世帯構成＊経済状況別



地域行事への参加は、世帯構成による違いが大きい。

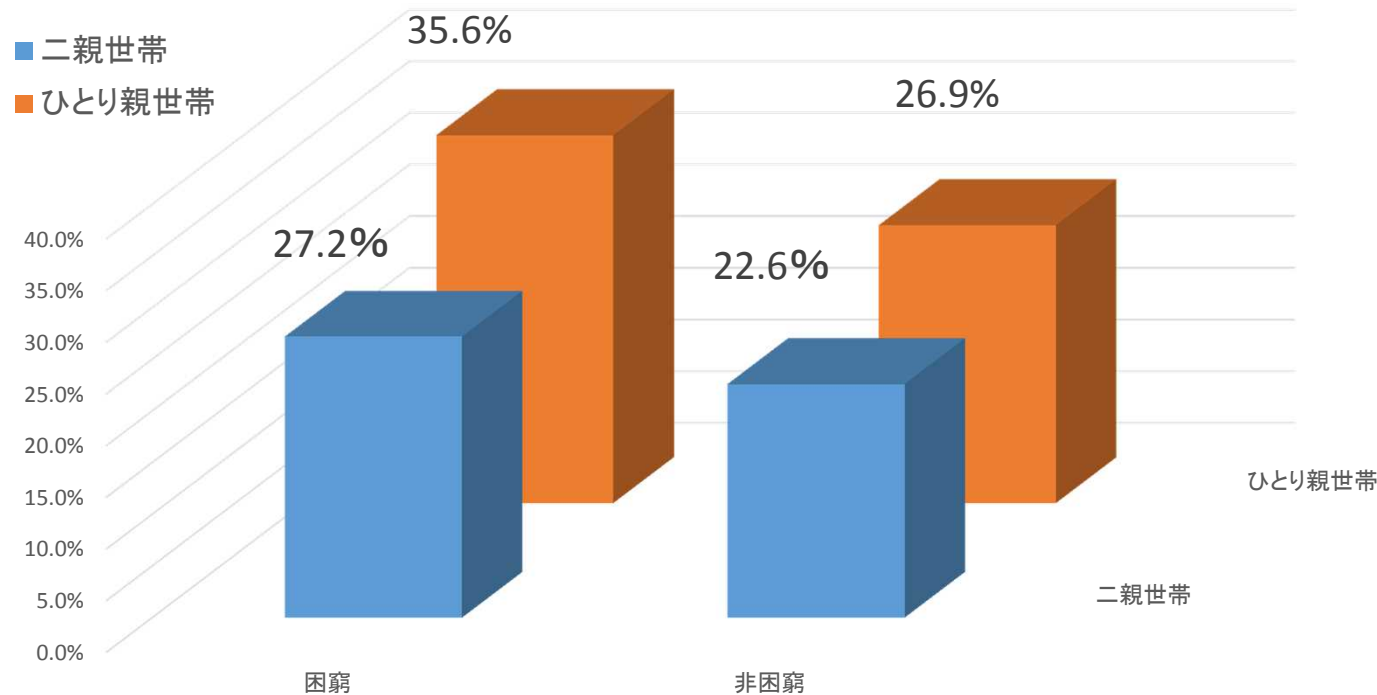
学校行事への参加 (参加できない割合) 世帯構成 * 経済状況別



学校行事への参加は、経済状況による影響を若干受けているが、世帯構成による違いのほうが影響が大きいと言える。

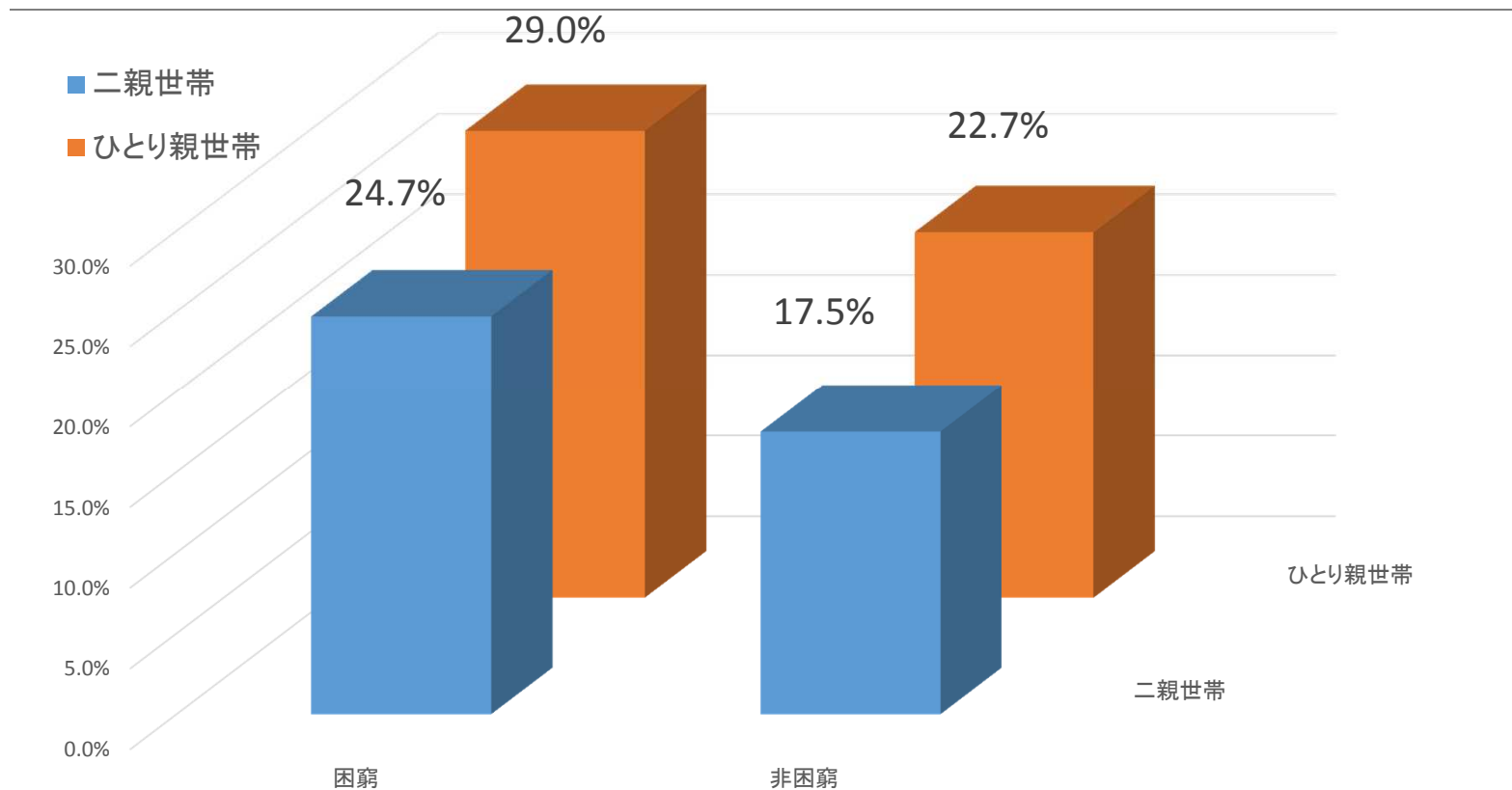
相談できる親類の存在(いない割合)

世帯構成 * 経済状況別



相談できる親類がない割合は、世帯構成の影響、経済状況の影響を同じ程度受けているように見える。特に、貧困問題を抱えるひとり親世帯ではいない割合が他の場合に比べて高い。

相談できる知人の存在(いない割合) 世帯構成*経済状況別

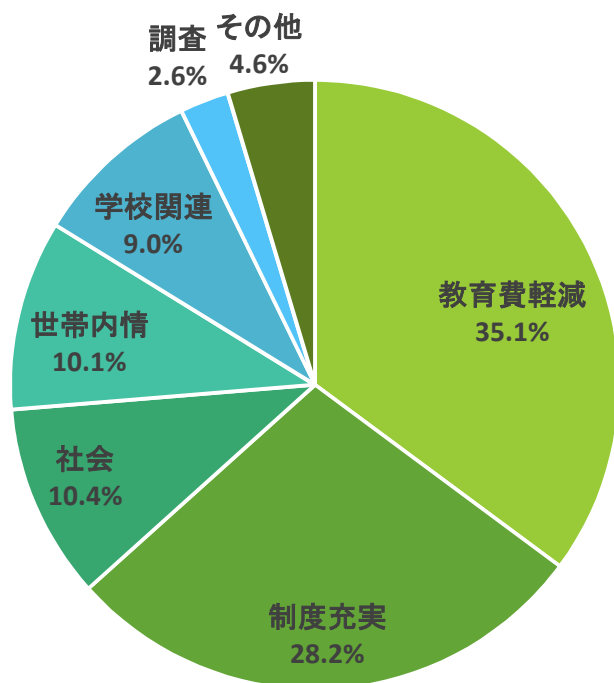


相談できる知人がいない割合は、世帯構成の影響よりも経済状況の影響をより強く受けているように見える。

自由記述欄

自由記述欄 保護者

保護者票 カテゴリ別 割合



保護者自由記述欄回答率は11.0%で、圧倒的に給付型奨学金の量的、条件的な充実、高校・大学等の授業料の無償化、学校に関わる経費の無償化といった意見が多かった。

非困窮世帯から、収入だけでは見えない部分で家計が困窮していることを訴える方が多く、多子世帯で同時に大学や高校などに進学する場合の学費など、世帯構成によってその収入からは見ることのできない厳しい実情が書かれていた。

高校以前の教育に対する意見や給食費、医療費の無償化など制度面での意見も書かれていた。

給与、雇用環境、親が長時間労働を強いられる事による弊害を社会全体の問題として、根本からの改善、改革を望む声も多かった。

保護者 自由記述欄（原文より抜粋）

【進学に関する記載】

- 多子世帯だと、高校まではどうにか、やっていけます。大学生となると、現在2人おり、学費が高い。子供に借金させずに大学までいけるような国になってほしい。
- 大学に進学させたいが、入学金のお金がない為、考えられない。入学金の段かいで、奨学金が受けられると良いのですが。塾に行かせられたいが、本人は、努力して、成績はとても良いので、親としてなさない。
- どうしても大学までは卒業させたい。でも経済的に厳しいので給付型の奨学金を受けたいです。今はまだ現状を知らないので子供が将来をあきらめる前にどうにかしたいと思っています。
- 銀行借り入れができなければ、子どもの進学も断念せざるを得ない。これはとても大きな心配心労です。進学させたくても、お金が準備できなければ子供の夢、希望をつぶしてしまうのは忍びないです。

保護者 自由記述欄（原文より抜粋）

【子どもの夢をかなえたい思いと不安】

- 私も苦しい家で育ちました。夢を諦めました。しかし我が子には自分の夢をあきらめないうで進んでほしいと感じています。
- 夢をあきらめず、進学してほしい気持ちと、経済的負担の不安とで、子供には申し訳ない気持ちでいっぱいです。
- 奨学金制度を利用しているが、それでも日々の生活がきつい。もう少し、経済的な援助が必要であるが親の収入のみでは、限界を感じる。
- 勉強ができて、スポーツができて・・・という子のみではなく、普通の子達にもチャンス、希望を下さい。
- 収入の総支給額と手取りの差が大きいため、支援が受けられず、本当に困っているのに、子どもに必要な教育費を、借金で支払っている。上の子どもの大学の授業料の支払いで、更に借金が増え、子ども達が進学していけばいく程、親は借金が増え、絶望的な気持ちになります。

保護者 自由記述欄（原文より抜粋）

【暮らしの厳しさ・支援について】

- 学ばせたくても、自由になるお金がないのなら、可能性をあきらめさせないために親は1日も休まず働きつづけて学校へお金をはらっています。
- 制服や副教材代、給食・弁当代、部活動費、修学旅行費など、学校内での支出が多く、きびしい。
- 小学校、中学校の時より高校の方がお金がかかるのに援助があまりないのが不満です。
- 児童手当や医療費等、子供が小さい時の支援はあるが、本当にお金がかかるのは、中学生になってからです。そこからの支援を増やして欲しい。
- 親として、何としてでも仕事をして、用意できるだけの金額はがんばります。しかし足りないのが現状です。他の子達よりは、身にまとう衣類、身の回りの品は、与えていませんが、本人はうらやましいようです。依存せず、精一杯のがんばりの中で、足りない援助は考えて欲しい

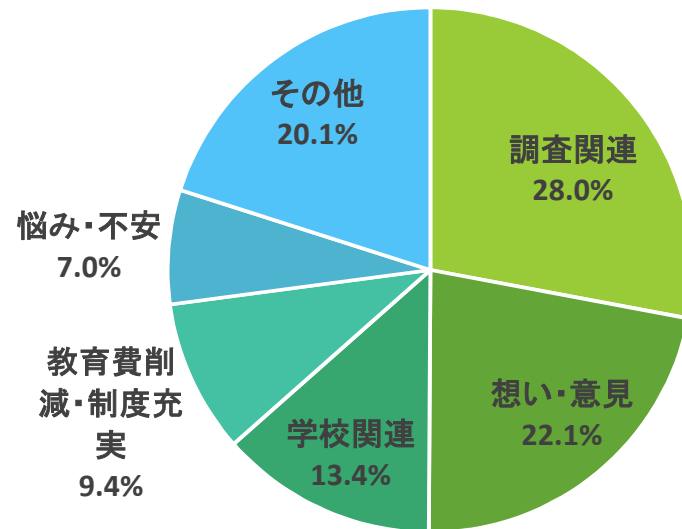
保護者 自由記述欄（原文より抜粋）

【通学関連】

- 交通費等だけでも経済的な負担も多いので、子供は、お金を気にしてバス代をけずってまで徒歩で時間をかけて歩くため、部活終了後は9時頃の帰宅な為、危険を感じる。
- バスの利便性が悪過ぎて頼ることができない。車社会の脱却のためにも、バス環境を向上させて欲しい。
- 高校生になると学費以外の面でも食費や資格所得、弁当、交通費かなり負担増になる。子育ての中で1番お金がかかり、必要とする時期だと思うので、早急に対策が必要だと思う。
- バス代も高校生は無料にしてほしい。できなければ、半額とか？ 定期を買ってもバス会社がちがうと料金の支払いをしないといけなかったりするのをおかしいと思います。区間内なのに。
- バスの本数が少なく、バス賃も高い。送迎した方が通学費を抑えられる為送迎しているが、出勤時間と合わなかったり、体調が悪い時はとても困る。
- 通学時間に合わせた交通機関がない。（バスの本数が少なく始発が遅く、終バスが早いため、バスが利用しにくい）
- 授業時間朝7時半、部活動の帰りが遅くなる等で公共のバスの使用ができず、毎日送迎するためガソリン代がかかりすぎる。

自由記述欄 生徒

生徒票 カテゴリ別 割合



生徒自由記述欄回答率は11.9%となっており、内容は生活の中からの将来への不安な訴えが切実に記入されていた。

調査を受けて自分の振り返りになったという意見も多く寄せられていた。

続いて現状の学校、部活動、友人関係、親子関係、などへの思いや意見が多かった。

将来への夢や、希望もあるという内容と同時に、不安を訴える声が多くあり、自身の有様からの不安、社会の有様からの不安とその内容は多岐に渡っていた。給付型奨学金と制度の適応範囲(量的、条件的)の拡充を望む意見もあり、将来への不安をうかがわせていた。

バス利用についても運賃面、利便性面かの充実を望んでいる意見がみられた。

生徒 自由記述欄（原文より抜粋）

【将来への不安】

●進学に対して経済的な面でとても不安があり、奨学金を借りても返せるか、とても不安になる。また、現在も奨学金を借りているが、それも返せるか、とても不安になる。

●私は大学進学を希望しているのですが、やはり大学4年間の授業料はとても高く、私たちの家庭でも、まかなうのがやっとだというのが現状です。私は県内大学に進学を希望はしていますが、私の友達にも私立大学に進みたいが、金銭的に厳しく国立大学しか目指すことができないと言う子が多くいます。

●私は県外の国立大学に行きたいと考えています。母は仕事を2つ掛け持ちして土日働き、私の大学費用と兄の予備校費用を稼いでくれています。私もアルバイトをして自分の大学費用のためにこつこつ貯金しています。給付型の奨学金制度がもっと充実していれば…と、いつも思います。何とかならないでしょうか。

生徒 自由記述欄（原文より抜粋）

【将来への不安】

●私の周りに進学してやりたいことがあるけれど、経済的に苦しく進学をあきらめる・自分のやりたいこととは違うものをする子が多い。ひとり親が多い。私も、家計が苦しいため、最悪夢は諦めて就職しないといけないかもしれない。これから沖縄を変えられる人材もいるかもしれないのに、経済的な理由で潰されるのはもったいないと思います。

●あまり家庭も裕福ではないので、大学に行くのにお金もないし、自分は大学にも行きたいし、お母さんも助けてあげたいのに、どうすることもできない。アルバイトをしてお金をためようと思っても、バイトしてる分、塾に行く時間も限られる。どうにか、返さなくてもいい、奨学金を作ってほしいと思います。貧乏人は大学に行くなってことにしかうけとめられません。

●なぜか不安になることがたまにあります。家計が苦しくて大学に行くべきか悩みます。親に無理させてまで夢を叶えたいのかどうかも分からないです。

生徒 自由記述欄（原文より抜粋）

【家庭の経済面】

- 大学進学にかかる費用が高額で親に経済的にきびしいと言われています。返済不要の奨学金制度をもっと手厚くしてくれませんか。
- 進学校に通っていますが、中学と違い親が公務員や社長、医者など裕福な家族の人がとても多くて経済的な格差は、子供の学力にもつながるような気がします。大学進学のために、塾に入る人はいると思いますが、60万とかするというのは聞くとなんだか嫌な気分になります。
- なにも心配なく生活したい。全部にお金がかかって、やりたいこと、買いたいものが、制限されるから、少しは免除して欲しい。安心して暮らしたい。
- 将来の夢のためには県外の専門学校じゃないと難しいと言われ、親に相談すると、「家系的にお金が大変だから進学は難しい。県外就職は二十歳過ぎてからにして」と言われました。でも、進学も就職したい県外企業もあきらめることができません。金銭面でも家庭環境的にも大変なので、奨学金制度も親がダメといいます。どうしたら確実に将来の夢へたどりつけるのでしょうか。

生徒 自由記述欄（原文より抜粋）

【将来への希望】

●進路に不安はつきないけど、私は今のゆめを実現させたいです。ゆめがやっと決まったからです。ただお金がかかるとなると、このゆめもあきらめなくてはなりません。だから、そこに悩んでいます。支援があれば、私だけでなく、多くの人がゆめを叶えて、国のために良い働きをしてくれると思います。

●家庭環境の問題で成り上がり得ないなんて事はないと思います。だから、皆にチャンスを同等に与える教育をしてほしい。学力だけでは、測りえない人材は必ずいます。

●私は両親にとっても愛されていると自覚しているし、経済的にもあまり不安はありません。自分の環境がとても恵まれている事は十分理解しています。周囲の知り合いには、そうではない人がたくさんいます。助けてあげてください。

生徒 自由記述欄（原文より抜粋）

【通学関連】

●交通費のアンケートもとった方が良いと思う。沖縄県は電車が無い為、バスを利用していると思うが、利用料が高いため、県外と比べても交通費が高くつくとおもう。私は、バス代を浮かせる為に自動車で送ってもらっているが、他にも周りに同じような人がたくさんいる。

●バスで高校に通っているのですが、バス代が高いのが少し辛いです。通学をバスに頼っているとどうしても毎日乗るので、定期券は使っているのですが、それでもかなり高いです。バス代が高いからという理由で親が毎日送り迎えをしている友だちもけっこういます。バス代が安くなってくるととても助かります。